



大村湾生きもの探し ガイドブック

長崎県環境保健研究センター

はじめに

大村湾は、長崎県の本土の中央にあります。その大きさは、南北25 km、東西12 kmとやや細長く、面積は約320 km²で、滋賀県の琵琶湖の2分の1ほどの大きさです。深さは最大で54 m、平均で15 mほどの比較的浅い海です。大村湾と外の海との間には佐世保湾があり、大村湾と外の海は直接つながっていません。

また、大村湾の水が入れ替わることができるのは、川のように幅が狭い針尾瀬戸と早岐瀬戸に限られています。このことから、大村湾は外の海とは違う環境になっています。

大村湾の特徴

- ①干満の差が小さい
- ②波浪の影響が少ない
穏やかな海
- ③夏冬の海水温の差が
外の海よりも大きい

このような特徴をもつ大村湾には、様々な生きものが暮らしています。このガイドブックは、そんな大村湾の生きものが持つ魅力を伝えるべく、誰もが使いやすい、見やすいガイドブックを目指して作成しました。

このガイドブックを持って大村湾の生きものに会いに行ってみましょう。



出典：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)
を加工して作成



もくじ

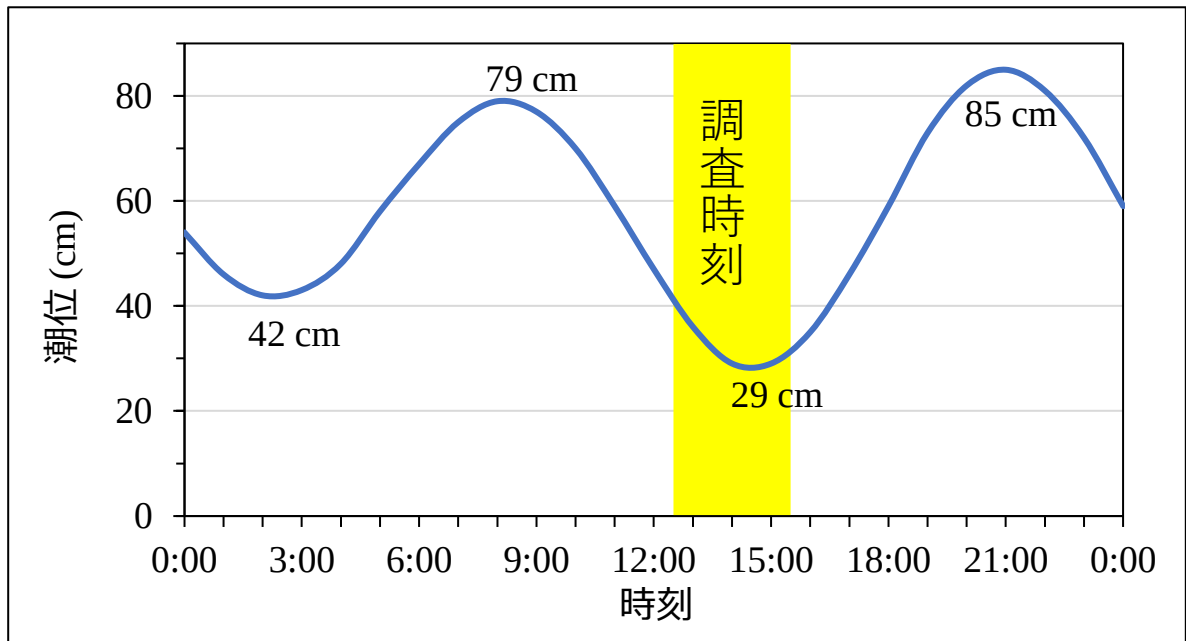
生きもの探しに行く前に	3
用意するもの	4
注意事項	5
大村湾の生きもの図鑑	6
・ 魚の仲間	8
・ エビの仲間	17
・ ヤドカリの仲間	21
・ カニの仲間	25
・ その他の節足動物	31
・ ヒトデやウニやナマコの仲間	33
・ ヒザラガイの仲間	37
・ カサガイの仲間	38
・ 巻貝の仲間	41
・ ウミウシの仲間	53
・ オカミミガイの仲間	57
・ タコの仲間	59
・ 二枚貝の仲間	61
・ ゴカイの仲間	73
・ その他の生きもの	77
さくいん	81



生きもの探しに行く前に

海の水面の高さは、時間とともに変化します。この現象を潮汐と呼びます。海の生きものを探すときには、この潮汐を調べて、潮が引いている時に海に行くと、より多くの生きものに出会うことができます。干潮の時間ピッタリに海に行ってしまうと、生きものを探している間に潮が満ちてしまうので、干潮時刻の2時間前くらいから生きものを探し始めるのが理想です。大村湾の干潮の時間は、海上保安庁のホームページなどで調べることができます。

大村湾では、外海の干潮時刻から3時間ほど遅れて干潮時刻になるので、外海の干潮時刻を参考にする場合には注意が必要です。



用意するもの 服装や道具

💡服装など💡

- 貝殻などでケガをしないように長袖や長ズボンで、**汚れても大丈夫な服装**で行きましょう。
- 長靴や運動靴など、**動きやすく丈夫な靴**を選びましょう。
- 洋服や体をできるだけ濡らしたくない時は、**胴付き長靴（ウェーダー）**を着用するのも良いです。
- 貝殻などで手を切ったり、思わぬケガを防ぐために**軍手や手袋**を着用しましょう。
- 万が一ケガなどをした場合に備えて救急箱など、**傷を手当て出来るもの**を用意したほうが良いです。
- 夏は暑くなるので、帽子をかぶったり、こまめな水分補給など**熱中症対策**を心がけましょう。

💡生きものを探すときにあると便利なもの💡

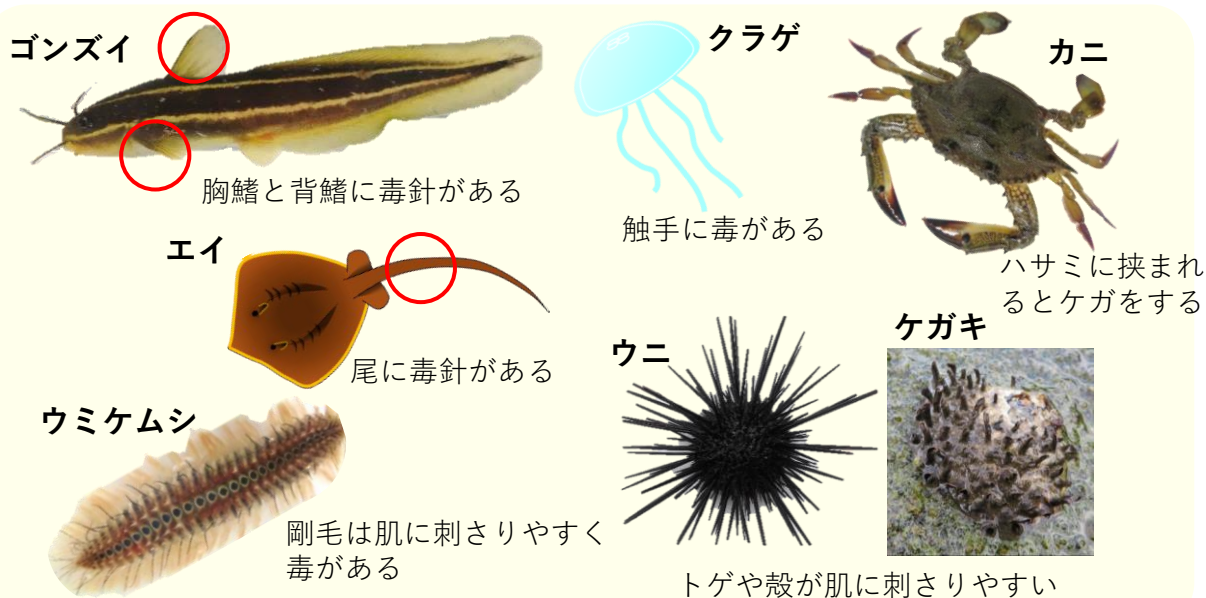
- 網
- 虫かごやバケツなど生きものを入れておけるもの
- 小さなスコップや熊手
- ザル（砂の中の生きものを探すときに便利です）
- カメラ（つかまえた生物の記録をとるため）



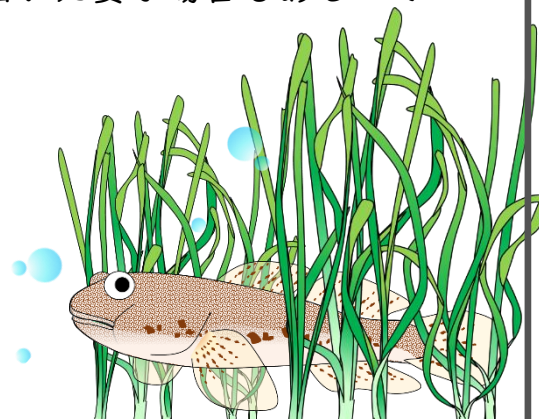
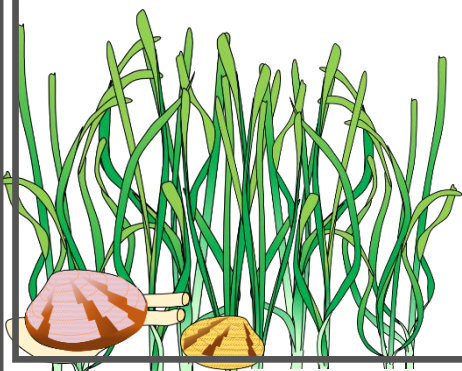
△注意事項△

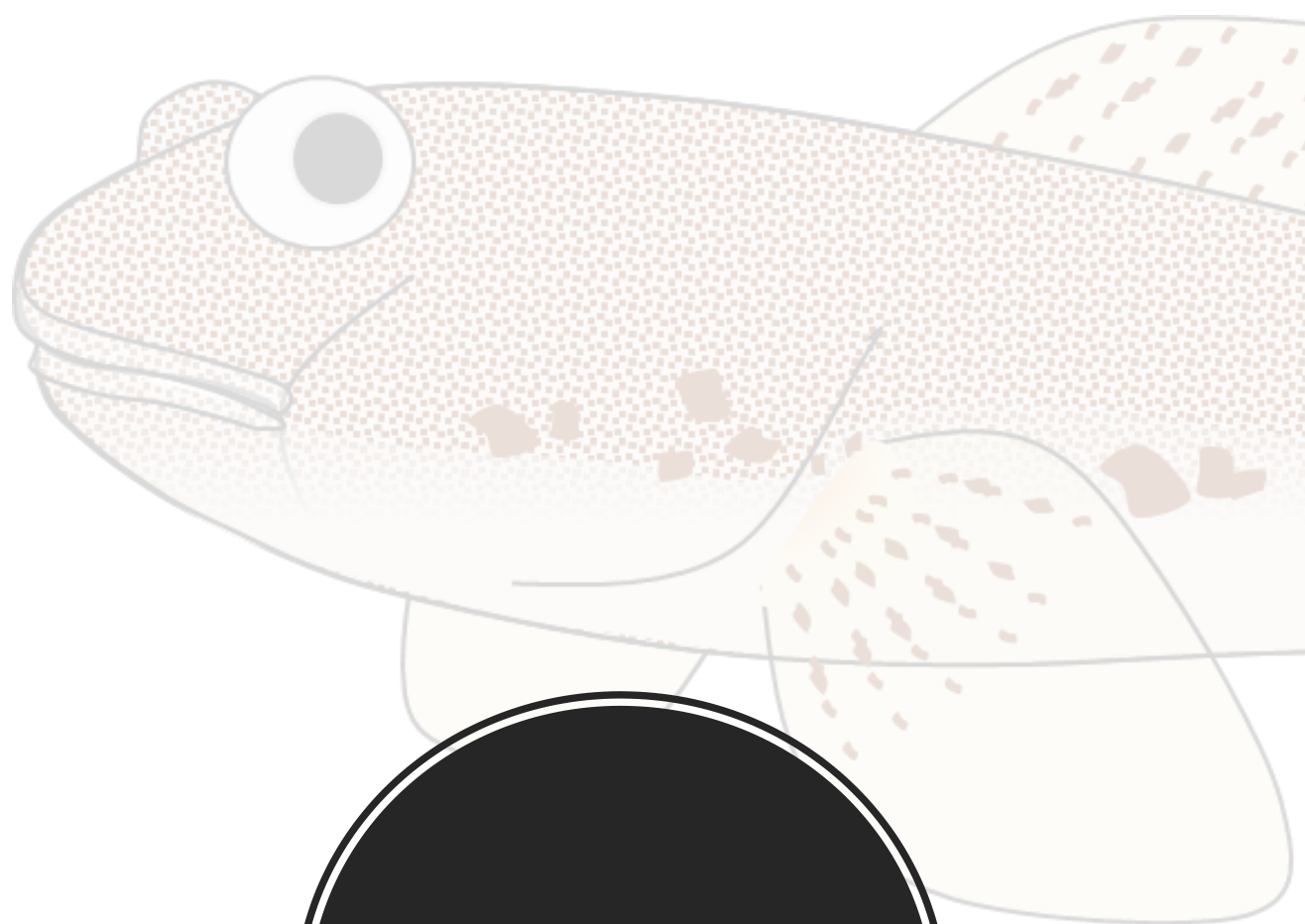


- 海岸には無数の生きものが住んでいます。むやみに歩き回ったりすると、生きものや巣穴を踏みつけてしまいます。移動するときには、生きものの上を歩いているという意識をもち、気を付けて歩きましょう。
- 海藻（海草）や巣穴などは、生きものの大切な住処です。できるだけ傷つけないように気を付けましょう。
- 石などをひっくり返したり、穴を掘った時には、できるだけ元のとおりに戻しましょう。
- 海には、鋭い殻をもつ生きものや、クラゲなどのように毒をもった生きものなど、危険な生きものがたくさんいます。十分に気を付けて、海を楽しみましょう。



- 海岸によっては漁業権が設定されている場所があります。対象になっている生きものは採集しないようにしましょう。また、漁業権の対象外の生きものをとる時でも、漁協への届け出が必要な場合もあるので注意しましょう。



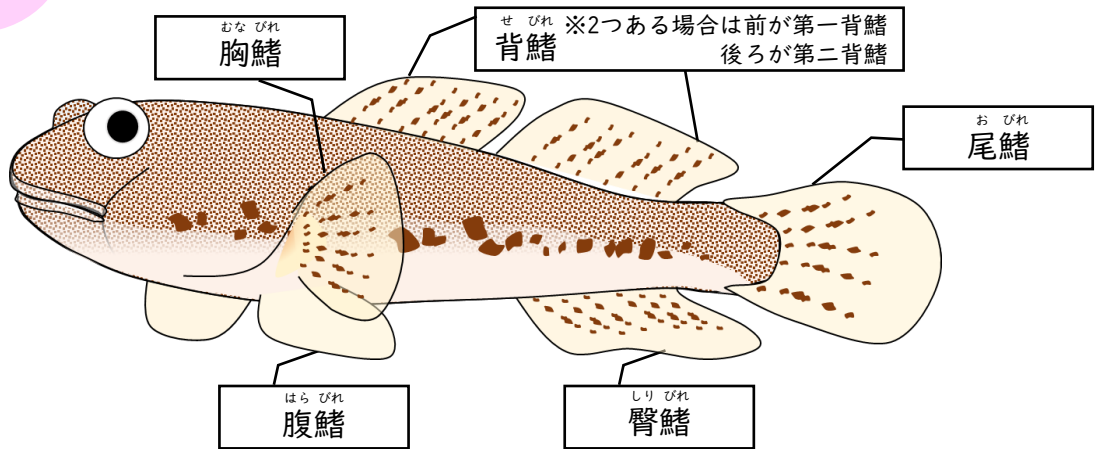


大村湾の
生きもの図鑑

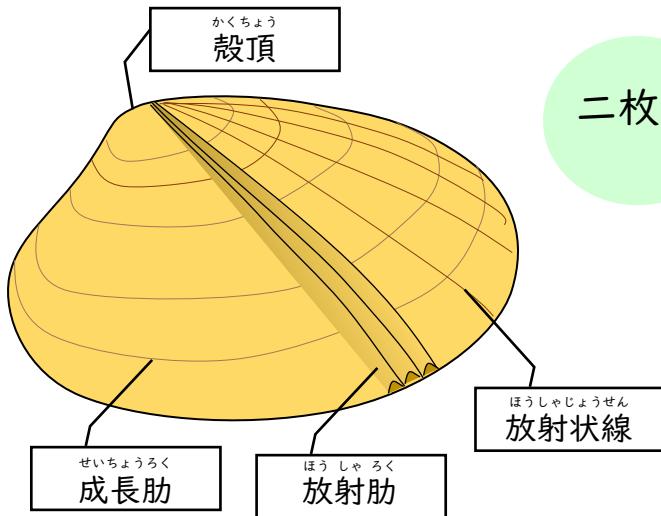
生きものの豆知識

～魚と貝の体の部位～

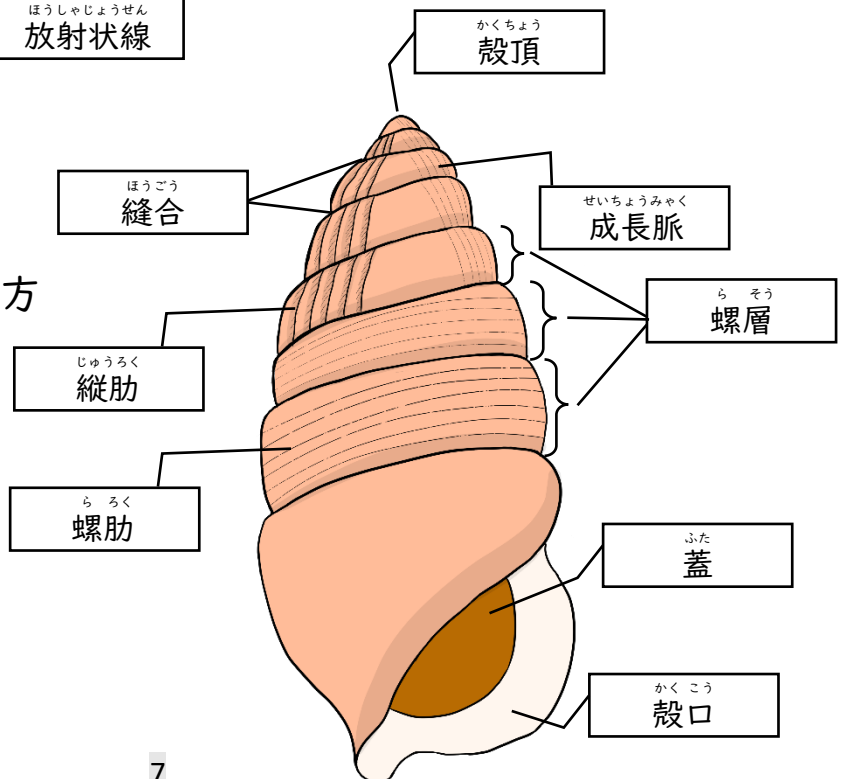
魚のヒレの名前



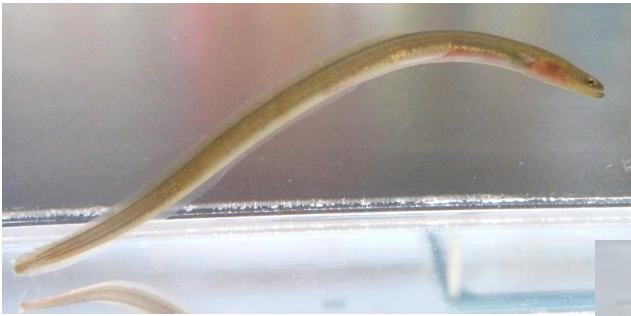
二枚貝の部位の呼び方



巻貝の部位の呼び方



魚の仲間



ニホンウナギ

学名： *Anguilla japonica*

分類：ウナギ目 ウナギ科 ウナギ属

特徴：

体は背面が黒色で腹が白っぽい。

粘液に覆われている。

背鰭、尾鰭、臀鰭が繋がっている。



ゴンズイ

学名： *Plotosus japonicus*

分類：ナマズ目 ゴンズイ科 ゴンズイ属

特徴：

ナマズの仲間。

体は茶～焦げ茶で2本の

黄色い線があり、8本の

口ひげがあるのが特徴。

ゴンズイ玉といわれる数十匹で群れを作って行動する。

背鰭と胸鰭の一部は、毒針になっており、刺されると痛む。



メダカの仲間

分類：ダツ目 メダカ科 メダカ属

特徴：

淡水に生息するが、塩分耐性が高く、

河口域でも見られる。

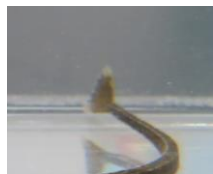


特徴：

細長い体、口が長いのが特徴。

尾鰭は扇のような形。

タツノオトシゴの仲間。



ヨウジウオ

学名：*Syngnathus schlegelii*

分類：トゲウオ目 ヨウジウオ科 ヨウジウオ属



特徴：

全身が黒く尾鰭と胸鰭が透明なのが特徴。

成長すると太くて黒い縞模様が現れ、

さらに大きくなると黒い斑点模様が入る。

成魚は最大60 cmほどになるが、写真は3 cm程度の幼魚。



コショウダイ(幼魚)

学名：*Plectorhinchus cinctus*

分類：スズキ目 イサキ科 コショウダイ属



特徴：

比較的細身のからだをしており、

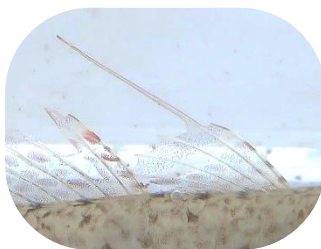
砂地のような模様をしている



ヒメハゼ

学名：*Favonigobius gymnauchen*

分類：スズキ目 ハゼ科 ヒメハゼ属



オスの背鰭の一部が
長く伸びている



下あごが出ている



タネハゼ

学名： *Callogobius tanegasimae*

分類：スズキ目 ハゼ科 オキナワハゼ属

特徴：

各鰭が大きく、特に胸鰭と尾鰭が大きく長い。



アベハゼ

学名： *Mugilogobius abei*

分類：スズキ目 ハゼ科 アベハゼ属

特徴：

体には、茶～黒色の模様が入り、後半部に黒い帯のような模様が2本あるのが特徴。

尾鰭に放射状の模様がある

第一背鰭の棘の数本は糸状に伸びる



ヒナハゼ

学名： *Redigobius bikolanus*

分類：スズキ目 ハゼ科 ヒナハゼ属

特徴：

3cmほどの小さなハゼ。

ウロコの端が褐色のため、網目模様に見える。





特徴：

(※写真では欠損しているが、尾鰭は本来分岐しない)



顔に白色の斑点がある。
背鰭に赤色の線が2～3本

ヌマチチブ

学名：*Tridentiger brevispinis*

分類：スズキ目 ハゼ科 チチブ属

胸鰭の付け根がオレンジ色



特徴：

頬に白色の斑点があり、
黒いしま模様がある



アカオビシマハゼ

学名：*Tridentiger trigonocephalus*

分類：スズキ目 ハゼ科 チチブ属



興奮や警戒すると
体が黒くなり、
様々な模様が体表に現れる
臀ビレに赤い帯がある



特徴：

口が大きく、下顎が上顎より前に出ている。
眼から口にかけて黒い模様がある。
顔や体側に黒い大きな斑点が並ぶ。
15cm以上の大型になる。



ウロハゼ

学名：*Glossogobius olivaceus*

分類：スズキ目 ハゼ科 ウロハゼ属

マハゼとの見分け方

ウロハゼ：ウロコが大きい、下あごが出ている、腹側が灰色
マハゼ：ウロコが小さく、上あごが前に出る、
腹側がやや光沢のある白



ドROME

学名： *Chaenogobius gulosus*

分類： スズキ目 ハゼ科 アゴハゼ属

特徴：

頭は平たく、体に白い斑点がある。

胸鰭の上の方の軟条が鰭とつながっていないのがアゴハゼ属（ドROME、アゴハゼ）の特徴。

ドROME：胸鰭と尾鰭に小さな黒点がない

アゴハゼ：胸鰭と尾鰭に小さな黒点がある



口は上あごが出ている

下あごが出ている（受け口）→ウキゴリ属



ビリンゴ

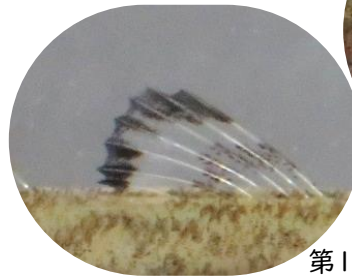
学名： *Gymnogobius breunigii*

分類： スズキ目 ハゼ科 ウキゴリ属

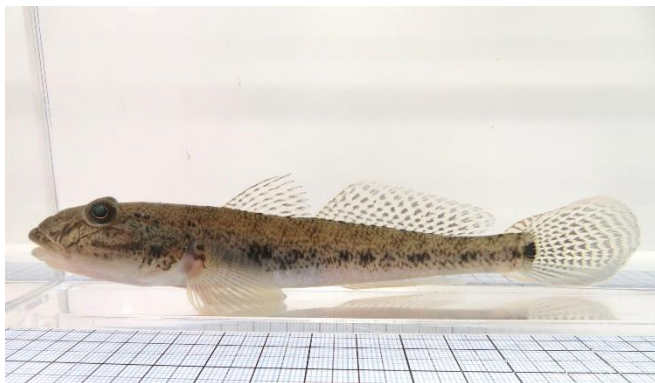
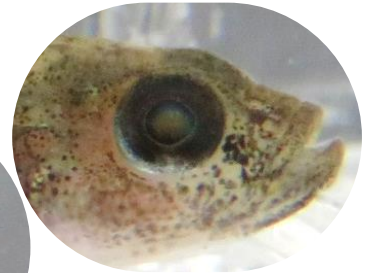
特徴：

体には網目状の模様があり、

眼から口にかけて黒い模様がある。



第1背鰭の先が黒い。



マハゼ

学名： *Acanthogobius flavimanus*

分類： スズキ目 ハゼ科 マハゼ属

特徴：

ウロハゼに似ているが、下あごに比べ上あごが前に出る。

体側には黒い斑点模様、背鰭と尾鰭には、

点線状の模様があるが、背鰭の下側には模様がない。

腹側はやや光沢のある白色。





特徴：

ミミズハゼよりも細長い。

体に太くて黒い帯模様があるのが特徴。

ヒモハゼ

学名：*Eutaeniichthys gilli*

分類：スズキ目 ハゼ科 ヒモハゼ属



特徴：

ミミズのように長細い体で

ウロコがないのが特徴。

色は環境によって

灰色～茶色～黒色まで様々。

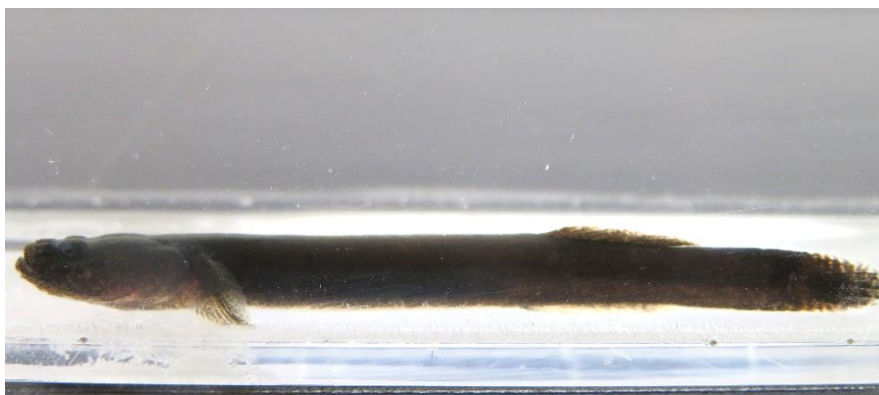
頭は平べったく、

眼の後ろが2カ所もり上がる。

普通のハゼの背鰭は

2つに分かれているが、

ミミズハゼは体の後ろの方に1カ所だけ。



ミミズハゼ

学名：*Luciogobius guttatus*

分類：スズキ目 ハゼ科 ミミズハゼ属



特徴：

頭に“とさか”のような大きな皮弁があり、

頭部は黒と黄色の縞模様になっているのが特徴。



トサカギンポ

学名：*Omobranchus fasciolatoceps*

分類：スズキ目 イソギンポ科 ナベカ属



ダイナンギンポ

学名： *Dictyosoma burgeri*

分類：スズキ目 タウエガジ科 ダイナンギンポ属

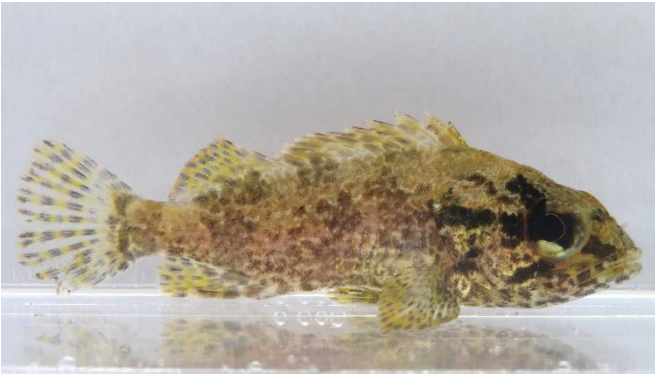
特徴：

背鰭と臀鰭が尾鰭までつながっている。

口から目の間を通り頭の後ろまで続く白い模様がある（模様がないうちもある）。

側線が背中から腹側にむかって入るため、「シワ」があるように見える。

ベニツケギンポに似ているが、ベニツケギンポは鰓の後ろに赤い模様がある。



タケノコメバル

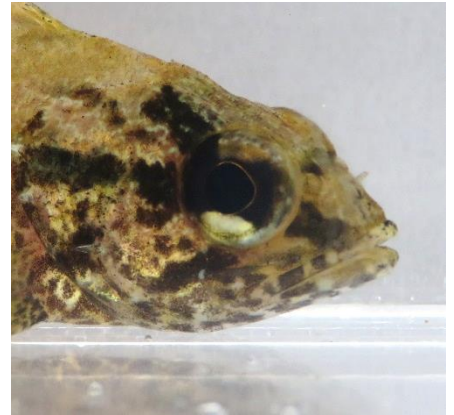
学名： *Sebastes oblongus*

分類：スズキ目 メバル科 メバル属

特徴：

口から眼を通り鰓につづく黒い線が特徴。

体は黄色～茶色に黒い斑点模様があることが多いが、色の入り方は様々。



アミメハギ

分類：フグ目 カワハギ科 ウマヅラハギ属

学名： *Rudarius ercodes*

特徴：

最大で10cm程度の小さなカワハギ。

体色は様々だが、ふつうは黄色や灰色で

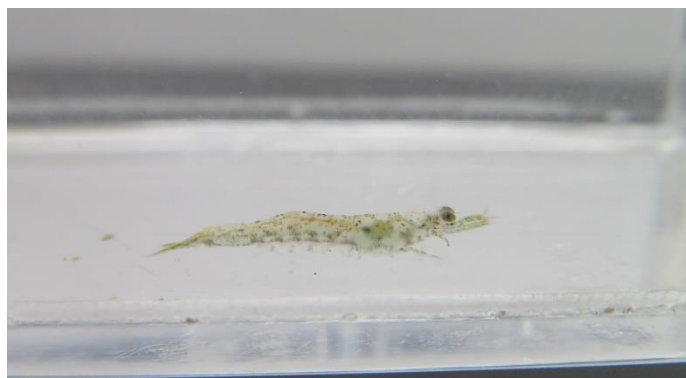
白い斑点模様があり、網目模様に見える。



図鑑に載っていない生き物を記録しよう

図鑑に載っていない生き物を記録しよう

エビの仲間



クルマエビの仲間

学名：-

分類：クルマエビ科



特徴：

脚やハサミの関節部分が黄色になっており、
体には茶～黒色の縞模様がある。

角（額角）が水平に近い。

本家のスジエビは淡水のエビ

スジエビモドキ

学名：*Palaemon serrifer*

分類：テナガエビ科 スジエビ属



特徴：

脚やハサミの関節部分が黄色になっており、
スジエビモドキにあるような縞模様はない。

黒～茶色の斑点模様がある。

背中には薄い黄色の線が1本入る。



ユビナガスジエビ

学名：*Metapenaeus moyebi*

分類：テナガエビ科 スジエビ属





セジロムラサキエビ

学名 : *Athanas japonicus*

分類 : テッポウエビ科 ムラサキエビ属

特徴 :

ハサミのついた腕は折りたたまれている

紫色の体の背中に白い線が入る

1cm程度の小さいエビ



イソテッポウエビの仲間

学名 : -

分類 : テッポウエビ科

特徴 :

右のハサミのどちらか一方が大きく、パチンと音を出す。

形や色が似たものが多く、同定は難しい。



コシマガリモエビ

学名 : *Heptacarpus geniculatus*

分類 : モエビ科 ツノモエビ属

特徴 :

体が「へ」の字に曲がっているのが特徴

色は緑や茶色の個体が多く、

アマモや海藻がある場所で保護色になっている。





アカシマモエビ

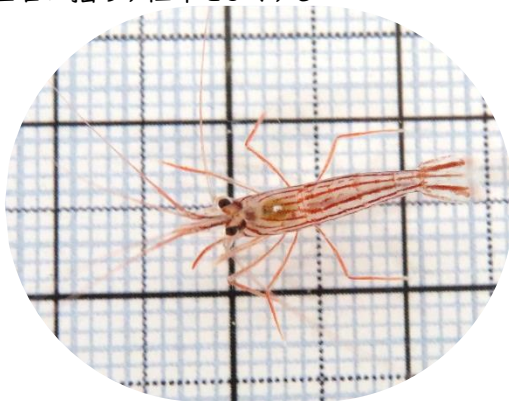
学名：*Lysmata vittata*

分類：モエビ科 トゲナガモエビ属

特徴：

透明な体に赤い縞模様が特徴的

体を左右に揺らす仕草をよくする



モエビの仲間

学名：-

分類：クルマエビ科

特徴：

形や色が似たものも多く、同定は難しい。



スナモグリの仲間

学名：-

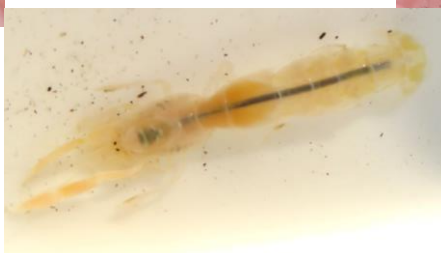
分類：スナモグリ科 スナモグリ属

特徴：

オスは片方のハサミが大きくなる。

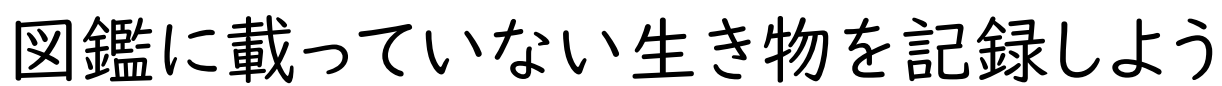
砂に穴を掘って巣を作る。

オスのスナモグリの仲間



メスのスナモグリの仲間





ヤドカリの仲間



ケブカヒメヨコバサミ

学名 : *Paguristes ortmanni*

分類 : ヤドカリ科 ヒメヨコバサミ属

特徴 :

左右のハサミの大きさは同じ、ハサミと脚は毛でおおわれ、触角にも毛が生えている

脚の色は赤っぽく、目柄が白と赤の縦縞模様になっている
歩く時もあまり貝殻から出てこない



ホンヤドカリ

学名 : *Pagurus filholi*

分類 : ホンヤドカリ科 ホンヤドカリ属

特徴 :

ハサミは右が大きい。

触角は縞々模様で、ハサミや脚は明るい緑色で、脚先に白くなっている部分がある。



ユビナガホンヤドカリ

学名 : *Pagurus minutus*

分類 : ホンヤドカリ科 ホンヤドカリ属

特徴 :

ハサミは右が大きい。

触角は縞々模様で、脚も縞模様になっている。

脚の先端の節が長くなっている。

貝殻をつかみ上げると出てこようとするくらい活発





ケアシホンヤドカリ

学名 : *Pagurus lanuginosus*

分類 : ホンヤドカリ科 ホンヤドカリ属

特徴 :

ハサミは右が大きい。

脚やハサミが細かい毛でおおわれる。

触角は明るい赤色、脚は明るい緑色に黒い斑点がある。



ヨモギホンヤドカリ

学名 : *Pagurus nigrofascia*

分類 : ホンヤドカリ科 ホンヤドカリ属

特徴 :

ハサミは右が大きい。

触角は赤色、ハサミや脚は明るい緑色に黒い斑点がある。

脚の先端に黒くなっている部分がある。

夏眠するため、夏には見つからないことが多い。



イソカニダマシ

学名 : *Petrolisthes japonicus*

分類 : カニダマシ科 イソカニダマシ属

特徴 :

カニに似ているが、1対のハサミと3対の歩脚（カニは4対）があることから、カニに似ているヤドカリの仲間。

ハサミは大きい、濾過摂食の懸濁物食者であり、エサをつかむためのハサミではない。

腹側は、エビの尻尾を折りたたんだような構造になっている。



生きもの豆知識

～ヤドカリのハサミの秘密～

ヤドカリは大きく2種類います。

【ヤドカリ科】と【ホンヤドカリ科】です。

この2種類の違いは、ハサミの大きさにあります。

【ヤドカリ科】では、両方のハサミの大きさが同じ、もしくは左側のハサミの方が大きくなっています。

【ホンヤドカリ科】では、右側のハサミが左側よりも大きくなっています。

【ヤドカリ科】



ケブカヒメヨコバサミ

ヤドカリを捕まえた時には、
ハサミの大きさの違いを観察してみよう。

【ホンヤドカリ科】



ホンヤドカリ



ケアシホンヤドカリ



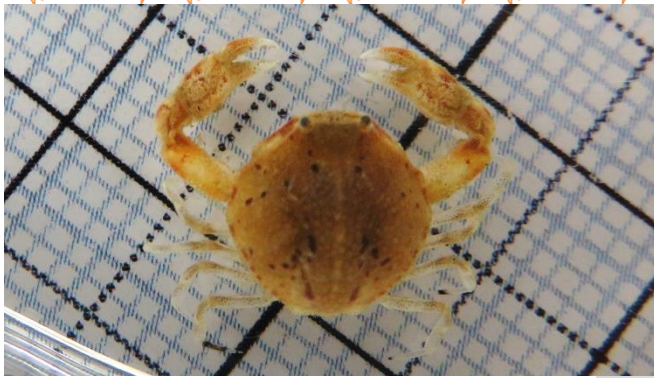
ヨモギホンヤドカリ



ユビナガホンヤドカリ

図鑑に載っていない生き物を記録しよう

カニの仲間



マメコブシガニ

学名 : *Philyra pisum*

分類 : コブシガニ科 マメコブシガニ属



特徴 :

甲羅が丸っこくて盛り上がり、あしは短い。

前に歩くことができる。

繁殖期には、メスにオスが後ろから抱きつくようにしてくっついて歩いている



台湾ガザミ

学名 : *Portunus pelagicus*

分類 : ワタリガニ科 ガザミ属

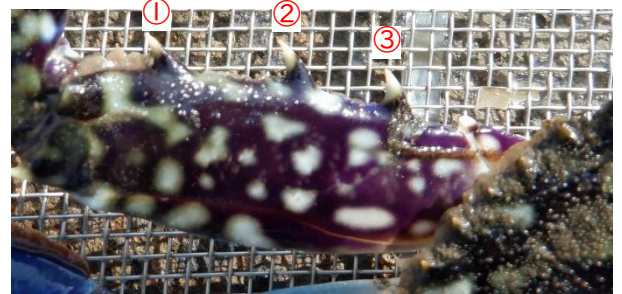
特徴 :

一番うしろの足先が平たくなっていて、泳ぐ時に使われる。

甲羅(こうら)の横の棘は、イシガニより鋭く尖っている。

ハサミが付いている腕の棘の数が3個なら台湾ガザミ
4~5個ならガザミ。

台湾ガザミのオスは、脚が青く、ハサミ脚が長い。



特徴 :

一番うしろの足先が平たくなっていて、泳ぐときに使われる。

見た目はガザミに似ているが、甲羅(こうら)の横のトゲはガザミのようにとがっていない。



イシガニ

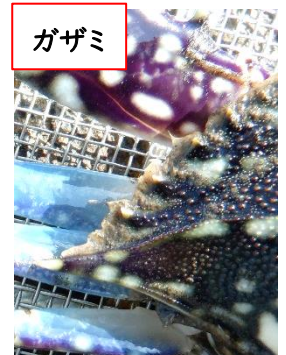
学名 : *Charybdis japonica*

分類 : ワタリガニ科 イシガニ属

イシガニ



ガザミ



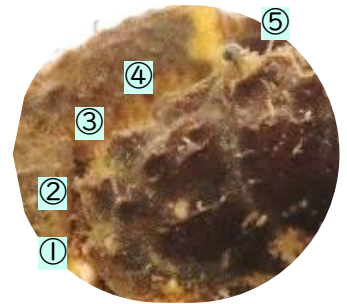


特徴：

甲羅が扇の形に似ている。

甲の前側縁には三角形の
とげが5つある。

触ると死んだふりをする



オウギガニ

学名：*Leptodius exaratus*

分類：オウギガニ科



特徴：

甲羅と脚が毛で覆われる。

甲羅や鋏脚に顆粒状の突起が無数にある。



マキトラノオガニ

学名：*Pilumnus makianus*

分類：ケブカガニ科 トラノオガニ属



特徴：

名前のとおり、全身がフサフサの長い毛に覆われている。



ケブカガニ

学名：*Pilumnus vespertilio*

分類：オウギガニ科 ケブカガニ属

からだじゅうがフサフサ





イソガニ

学名 : *Hemigrapsus sanguineus*

分類 : モクズガニ科 イソガニ属

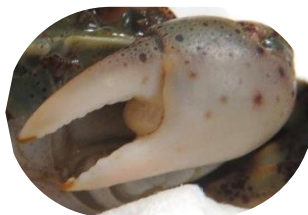
特徴 :

オスはハサミが大きくなる。

ハサミの外側に黒い斑点がある。

ハサミの根元に袋がついている。

脚はまだら模様。



ケフサイソガニ

学名 : *Hemigrapsus penicillatus*

分類 : イワガニ科 イソガニ属

特徴 :

オスのハサミは大きく、かみ合わせ部分に毛が生えている。

体の裏側とハサミに黒い斑点模様がある。



ハサミの内側の毛

ハサミの外側の毛



ハサミの間に茶色の毛が生えている



特徴 :

ケフサイソガニとよく似ており、オスのハサミの毛の束の大きさで見分ける。

内側=外側:タカノケフサイソガニ

外側<内側:ケフサイソガニ

タカノケフサイソガニでは、ハサミやおなか側の黒い斑点が小さいかほとんど見られない。



タカノケフサイソガニ

学名 : *Hemigrapsus takanoi*

分類 : イワガニ科 イソガニ属





ヒライソガニ

学名 : *Gaetice depressus*

分類 : イワガニ科 ヒライソガニ属

特徴 :

ハサミが大きく先が白～オレンジ色になっている。

体の裏やハサミに毛が生えていない。

黒い斑点模様もない。



特徴 :

甲羅(こうら)は四角い。

目の後ろに2つの突起がない(突起があればフタバカクガニ)

体の裏に黒い毛が束状にまばらに生えている。

脚に毛が生えている。



カクベンケイガニ

学名 : *Parasesarma pictum*

分類 : ベンケイガニ科 カクベンケイガニ属



特徴 :

ハサミはオレンジ色

甲羅の目の横に二つの「歯」がある。

写真の個体は歩脚1本とハサミ脚を欠損している。



フタバカクガニ

学名 : *Parasesarma didens*

分類 : ベンケイガニ科 フタバカクガニ属





ウモレベンケイガニ

学名 : *Clistocoeloma sinense*

分類 : ベンケイガニ科

特徴 :

甲羅と足に短い毛があり、
甲羅や脚に粒状の凹凸がある。
危険を感じると死んだふりをする。



手のひらの上で
死んだふりをしている



オスのハサミ(上)は
メスのハサミ(左)に比べて大きい



特徴 :

甲羅は横に長く、目が長い。
ハサミは白くスベスベで、オスの第3、第4歩脚に毛がある。
足に毛がないものは、ヤマトオサガニ。

ヒメヤマトオサガニ

学名 : *Macrophthalmus banzai*

分類 : スナガニ科 オサガニ属



チゴガニ

学名 : *Ilyoplax pusilla*

分類 : スナガニ科 チゴガニ属

特徴 :

とても小さなカニ
甲羅は上から見ると長細い5角形に見える
ハサミの先が白い





コメツキガニ

学名 : *Scopimera globosa*

分類 : スナガニ科 コメツキガニ属

特徴 :

小さいカニ。

甲羅は丸っこくて球状に近く、上から見るとかまぼこ型。

目が長い。

ハサミの先は細く、フォークのよう。



からだがまんまる



チゴイワガニ

学名 : *Ilyograpsus nodulosus*

分類 : オサガニ科 チゴイワガニ属

特徴 :

とても小さなカニ

甲羅は上から見ると丸く、足が長い

写真の個体は歩脚が1本欠損



生きものが見つからない時には、石の下を探してみましょう。

左の写真のように多くの生きものに会えることがあります。

また、石を動かすとカニやエビが逃げていくので、動く生きものも見つけやすくなります。





その他の節足動物



特徴：

カニなどの甲殻類に寄生している。

カニの腹から見えている部分はフクロムシのメスの生殖器官で、寄生された生物は自分の卵だと思い込んで守る。

オスが寄生された場合は、寄生された個体をメス化する。
フジツボやカメノテの仲間。



ウンモンフクロムシ

学名： *Sacculina confragosa*

分類： フクロムシ科



特徴：

3 cm程度。

石の下や、海藻の中に住む。

一見すると木の枝にしか見えない。

ヘラムシの仲間

学名： -

分類： ヘラムシ科



特徴：

1 cm程度。

石の下や、海藻の中に住む。

危険を感じるとダンゴムシのように丸まることができる。



コツブムシの仲間

学名： -

分類： コツブムシ科





図鑑に載っていない生き物を記録しよう



ヒトデやウニやナマコの仲間



スナヒトデ

学名 : *Luidia quinaria*

分類 : スナヒトデ科

特徴 :

足は細くて長く、5本足。

背面は灰褐色～緑っぽいものもあり、体の中心から足の先にかけて黒いラインが入っている。

体の縁にとげがある。



イトマキヒトデ

学名 : *Patiria pectinifera*

分類 : イトマキヒトデ科

特徴 :

足は太くて短い。

5本足が基本だが、まれに4本や6本、7本足の個体もいる。

背面は暗い青色～黒色で、赤いまだら模様がある。

腹面は赤やオレンジ色。



ヒメヒトデの仲間

学名 : -

分類 : ヒメヒトデ科

特徴 :

体色は様々。

メスは体をすばめて腹面に空間を作り、そこで卵を抱き、稚ヒトデになるまで保育する。

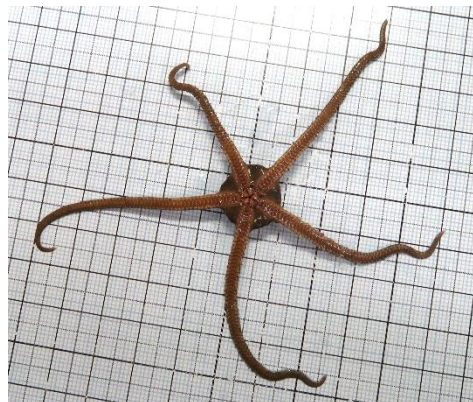
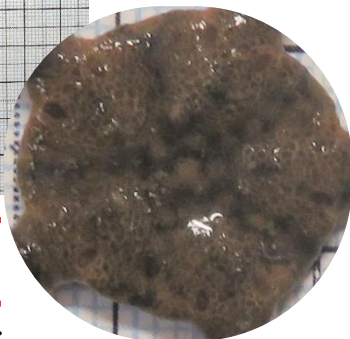




特徴：

真ん中の丸い部分が小さな鱗で覆われている。

腕のとげが片側3本ある。



ニホンクモヒトデ

学名：*Ophioplocus japonicus*

分類：ハナクモヒトデ科



特徴：

黒に近い紫色。

とげは長くつやがある。

産卵期になると生殖腺が発達し、食用として流通している。

トゲがかたくて鋭いので、触るときには注意が必要。



ムラサキウニ

学名：*Heliocidaris crassispina*

分類：ナガウニ科



特徴：

直径5 cm程度。ウニの仲間。

薄い円盤状で、色は赤色。砂に浅く潜って生活する。

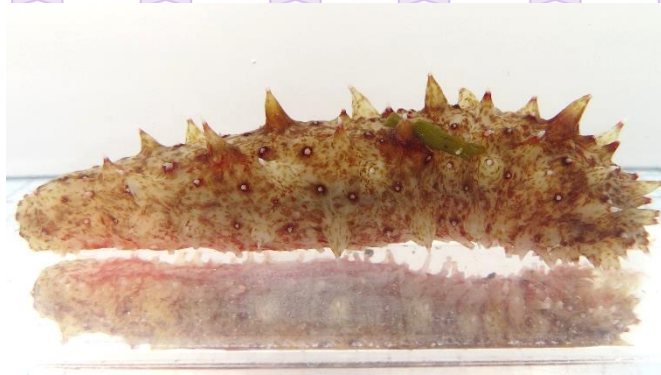
生殖孔と呼ばれる小さな穴が4つある。



ヨツアナカシパン

学名：*Peronella japonica*

分類：カシパン科



特徴：

大きくなると20～30cmになる。

体は黄茶色～赤褐色。

食用として流通している。



アカナマコ

学名：*Apostichopus japonicus*

分類：シカクナマコ科



特徴：

10 cm程度。体表にある骨がイカリの形をしている。

指で体に触ると引っかかる感じがしてザラザラしている。



イカリナマコの仲間

学名：-

分類：イカリナマコ科

口の周りに生えた触手を使って砂を口に運ぶ

イカリナマコの豆知識

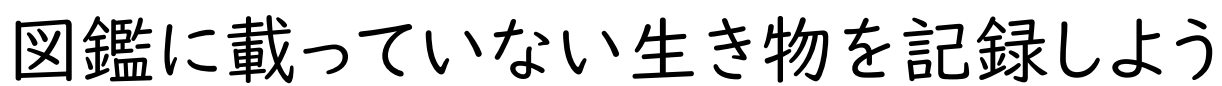
～イカリはどこ？～

イカリナマコは、棘皮動物門・ナマコ綱というグループに分類されるナマコの仲間です。ナマコには、骨格はありませんが、体の中に骨片という小さな骨のかけらを無数に持っています。イカリナマコは、その骨片の形がイカリに似ているので、イカリナマコと名づけられました。

他には、クルマナマコというナマコもありますが、こちらは骨片が車輪の形に似ていることから名付けられました。



顕微鏡で見た
イカリナマコの骨片



36

ヒザラガイの仲間



ヤスリヒザラガイ

学名: *Lepidozona coreanica*

分類: ウスヒザラガイ科

特徴:

体長5 cm程度。

8枚の殻が並び、両端の殻には放射肋がある。中間板の中央域に細い縦肋が走り、手で触るとザラザラしている。口は腹面にあり、40個近くのえらがある。石に付着して生活している。



ヒメケハダヒザラガイ

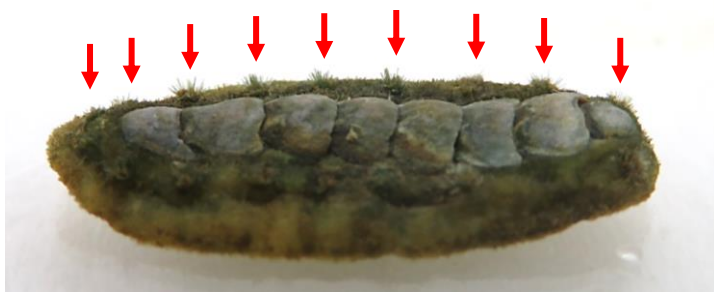
学名: *Acanthochitona achates*

分類: ケハダヒザラガイ科

特徴:

体長5 cm程度。

楕円形で、中央の8枚の殻は体に対してやや小さい。殻を囲んで9対の毛の束があり、ケハダヒザラガイと比べると、体全体が細い。



ケハダヒザラガイ

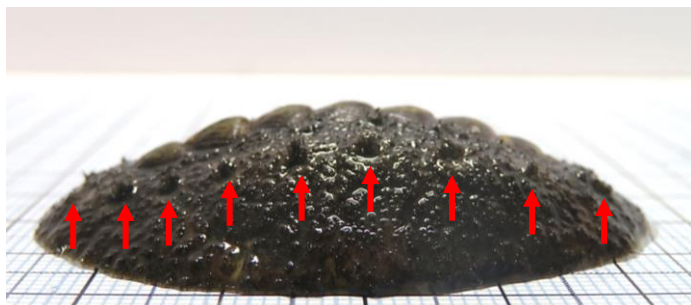
学名: *Acanthochitona defilippii*

分類: ケハダヒザラガイ科

特徴:

体長5 cm程度。

太い楕円形で、中央の8枚の殻は体に対して小さい。殻を囲んで9対の毛の束があり、ヒメケハダヒザラガイと比べると、丸っこい形をしている。



カサガイの仲間

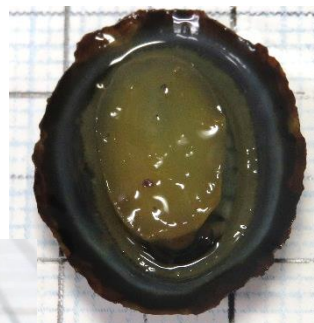


コウダカアオガイ

学名 : *Nipponacmea concinna*
分類 : ユキノカサガイ科 アオガイ属

特徴:

小さな突起(顆粒)が並んだような
細かい放射肋が放射状にある。
殻高はやや高い。

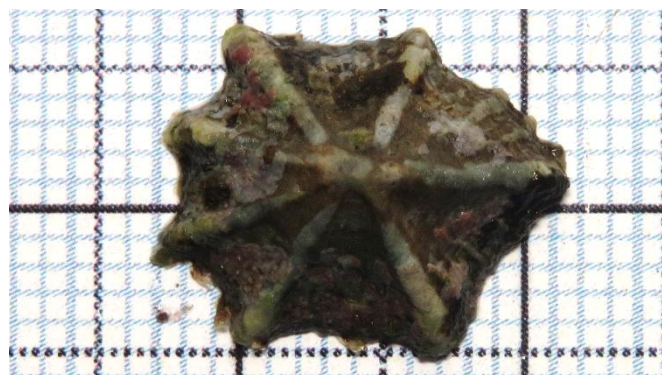


アオガイ

学名 : *Nipponacmea schrenckii*
分類 : ユキノカサガイ科 アオガイ属

特徴:

小さな突起(顆粒)が並んだような
細かい放射肋が放射状にある。
殻高は低い。

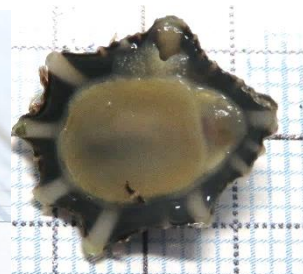


ウノアシガイ

学名 : *Patelloida lanx*
分類 : ユキノカサガイ科

特徴:

7~10本の放射肋があり、縁側に飛び出している。
形が水かきをもつ鳥の足(鵝の足)に似ている。





マツバガイ

学名 : *Cellana nigrolineata*

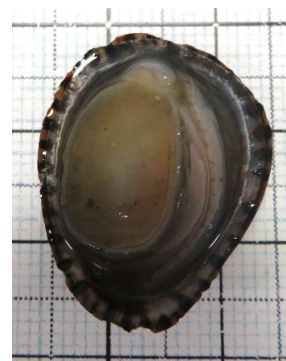
分類 : ヨメガカサ科 ヨメガカサ属

特徴 :

大きいものと8cmに達する。

下地は黒青～灰褐色であり、

赤褐色の模様が放射状に入っているものが多い。



ヨメガカサ

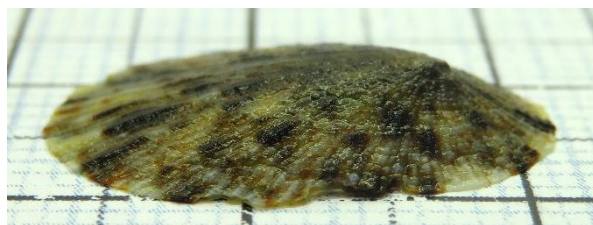
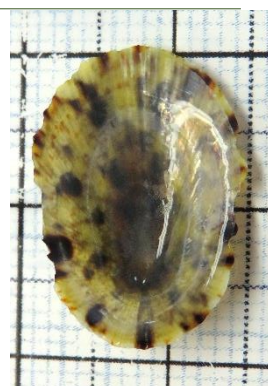
学名 : *Cellana toreuma*

分類 : ヨメガカサ科 ヨメガカサ属

特徴 :

小さな突起(顆粒)が並んだような
細かい放射肋がある。

様々な模様がある。



オトメガサガイ

学名 : *Scutus sinensis*

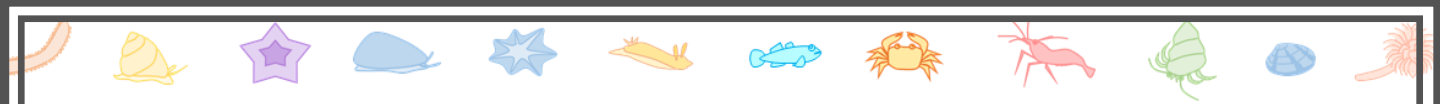
分類 : スカシガイ科

特徴:

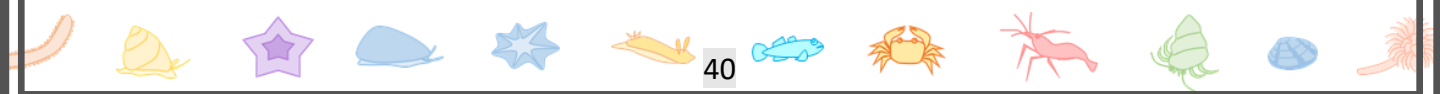
4cm程度。

軟体部は黒色のものや、褐色に黒い斑点
を持つものがある。

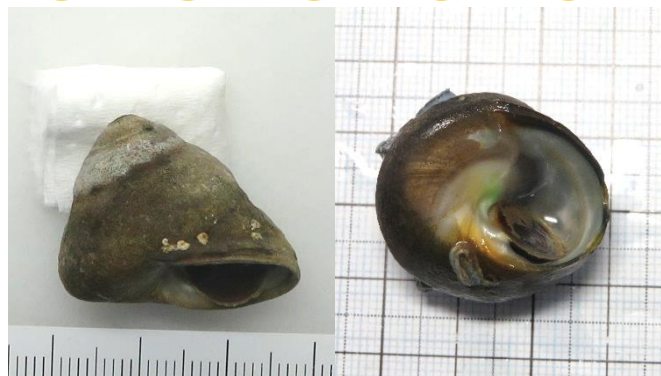
殻は細長く、頭側が湾入している。



図鑑に載っていない生き物を記録しよう



巻貝の仲間



クマノコガイ

学名 : *Chlorostoma xanthostigma*

分類 : バイテラ科

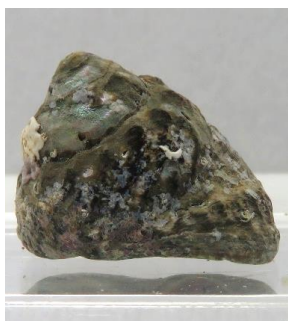
特徴 :

殻長3 cm程度。殻頂は丸く、細かな成長脈があるため、光沢がない黒色に見える。殻底の中心が緑色を帯びる。クマノコガイに似ているがクボガイは斜めの縦肋で殻がデコボコしているが、クマノコガイは全体が黒っぽく、デコボコはない。



特徴 :

殻長3 cm程度。殻頂は丸く、殻は灰色で全体に斜めの縦肋が入り斜めの模様が目立つ。殻底には真珠層がほとんどなく、中心は緑色にならない。クマノコガイ、クボガイに似ているがコシダカガンガラは、殻底の中心に穴が開く(クボガイも一部は穴がある)。



コシダカガンガラ

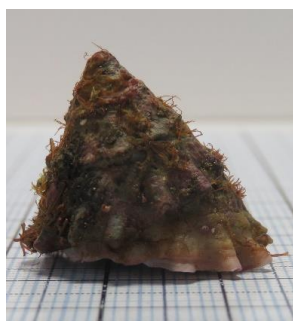
学名 : *Omphalius rusticus*

分類 : バイテラ科



特徴 :

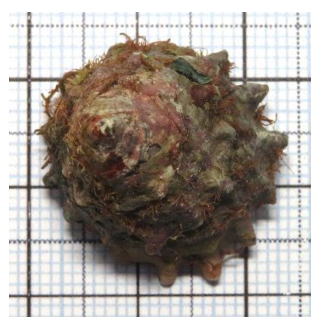
殻長3 cm程度。
円錐形に近い形で、殻の螺旋にあわせて歯車のような突起がある。
殻底は平らで、中心と蓋が紫色を帯びる。

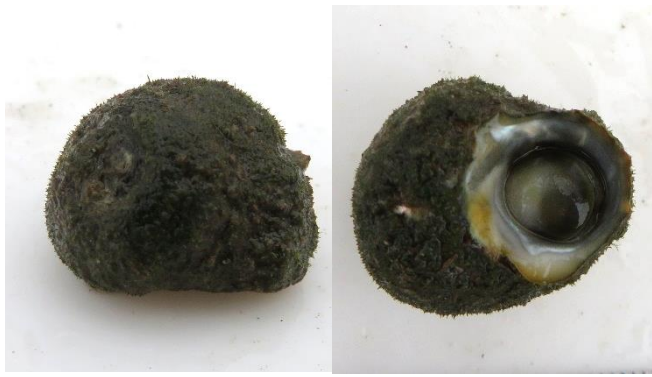


ウラウズガイ

学名 : *Astralium haematragum*

分類 : サザエ科





スガイ

学名 : *Lunella coronatus coreensis*

分類 : サザエ科

特徴 :

殻長2 cm程度。殻の高さは低く、コブのある縦肋が走る。殻にはカイゴロモという緑藻を生やしていることが多い。このカイゴロモは、スガイの貝殻上でのみ生育する。



イシダタミ

学名 : *Monodonta labio confusa*

分類 : ニシキウズ科

特徴 :

殻長2 cm程度。

殻頂は尖っており、石畳のような凹凸が殻の表面にある。



アシヤガイ

学名 : *Granata lyrata*

分類 : サンショウガイモドキ科

特徴 :

殻長2 cm程度。

殻の高さは低く、細い螺肋に覆われる。

殻口は広く、真珠光沢がある。

殻口の大きさに対して、蓋がかなり小さい。





ヒメカノコガイ

学名 : *Clithon oualaniense*

分類 : アマオブネガイ科

特徴 :

1 cm程度になる。光沢のある殻の色は変化に富み、縞模様、斑点、三角形などのさまざまな模様がある。蓋の縁が赤い。



アマガイ

学名 : *Nerita japonica*

分類 : アマオブネガイ科

特徴 :

殻長1 cm程度。

殻に光沢はなく、黒色にウロコ状の模様をもつものが多いが、様々な模様がある。



殻口は広がる



コゲツノブエ

学名 : *Cerithium coralium*

分類 : オニノツノガイ科 カニモリガイ属

特徴 :

殻高3 cm程度。

茶色の個体が多く、殻の表面に3列の顆粒が並ぶのが特徴。

殻口を横から見ると下側が張り出す。





カヤノミカニモリ

学名 : *Clypeomorus bifasciata*

分類 : オニノツノガイ科 カスリカニモリ属

特徴 :

殻長3 cm程度。

殻は低く、殻の表面には楕円形のコブが並ぶ。



カニモリガイ

学名 : *Rhinoclavis kochi*

分類 : オニノツノガイ科

特徴 :

殻長3 cm程度。

殻は高く、殻口の下部は溝状に反る。



この部分が溝状で反る



ホソウミナ

学名 : *Batillaria attramentaria*

分類 : ウミナ科 ウミナ属

特徴 :

殻長3 cm程度。

ウミナに似ているが、殻口は張り出さない。





ウミニナ

学名 : *Batillaria multiformis*

分類 : ウミニナ科

特徴 :

殻長3 cm程度。

殻口は大きく、上部に白く滑らかな部分が露出するのが特徴。

殻口を横から見ると下側が張り出す。



イボウミニナ

学名 : *Batillaria zonalis*

分類 : ウミニナ科

特徴 :

殻長3 cm程度。

ウミニナに似ているが、殻口を横から見ると「て」

の字型に張り出す。



ヘナタリ

学名 : *Pirenella nipponica*

分類 : キバウミニナ科

特徴 :

殻長3 cm程度。

殻口はラッパ状に開き、下端は「つ」の字型に下側が張り出す。





特徴：

8 mm程度。粒上の突起が列になる。

海岸の中でも陸に近い場所（満潮時にだけ水に浸かる場所、もしくは波のしぶきがかかる部分）に多く見られる。

アラレタマキビ

学名：*Echinolittorina radiata*

分類：タマキビ科 タマキビ属



特徴：

殻長15 mm程度。

殻の表面に強い螺肋があるのが特徴。海岸の中でも陸に近い場所（満潮時にだけ水に浸かる場所、波のしぶきがかかる部分）に多く見られる。



タマキビ

学名：*Littorina brevicula*

分類：タマキビ科 タマキビ属



特徴：

最大7 cm程度。

殻は茶～黒色で裏側は白い。

活動時には軟体部が大きく広がり、砂の中に潜り、二枚貝を捕食する。



ツメタガイ

学名：*Glossaulax didyma*

分類：タマガイ科 ツメタガイ属





キクスズメガイ

学名 : *Hipponix conicus*

分類 : スズメガイ科

特徴:

他の巻貝などに付着している。

殻は頑丈で、太い放射肋がある。

殻頂は後ろ側に倒れて少し曲がっている。



オオヘビガイ

学名 : *Thylacodes adamsii*

分類 : ムカデガイ科

特徴 :

殻幅は4 cm程度。

不規則な管状の貝殻を作り、蓋はない。

粘液の糸を出して、水中の餌を絡めて捕食する。

左の写真はハボウキガイに付着した個体。



イソニナ

学名 : *Japeuthria ferrea*

分類 : エゾバイ科

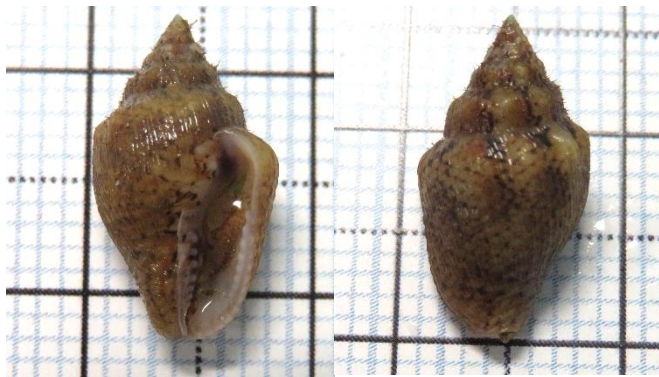
特徴 :

殻長4 cm程度。写真の個体は藻類に覆われている。

殻の表面には緩やかなクビレがあり、内側は黒っぽく染まる。

オスは細身でメスは太くなる。





フトコロガイ

学名 : *Euplica versicolor*

分類 : フトコロガイ科

特徴 :

殻長は1 cm程度。

殻長は尖り、殻口は細長い。

殻口の内側下部には、顆粒が並ぶ。

蓋は丸く、殻口よりもかなり小さい。



ナガニシ

学名 : *Fusinus perplexus*

分類 : イトマキボラ科 ナガニシ属

特徴 :

殻長12 cmほどになる。

貝殻は高く、水管溝は長く伸びる。

写真の貝は死貝。中にはヤドカリが入っている。



テングニシ

学名 : *Hemifusus tuba*

分類 : テングニシ科 テングニシ属

特徴 :

殻長は15 cm程度。

水管溝は太く長く伸びる。殻口が広く、内部はオレンジ色。





アラムシロ

学名 : *Nassarius festivus*

分類 : ムシロガイ科



アラムシロ (左) とムシロガイ (右) の比較

ムシロガイの方が幅が太く、貝殻に厚みがある

特徴 :

殻長 15 mm 程度。太い紡錘形で、荒い

粒の列が並び、縞模様。



ムシロガイ

学名 : *Nassarius livescens*

分類 : ムシロガイ科



特徴 :

殻長 2 cm 程度。

円錐形に近く、石畳状の突起に覆われる。



アカニシ

学名 : *Rapana venosa*

分類 : アッキガイ科 チリメンボラ属

特徴 :

殻長は 10 cm 程度。

殻口が広く、内部はオレンジ色。





特徴：

殻長5 cm程度。

殻の表面にはコブ状の突起が無数にある。

殻口内はオレンジ色。



レイシガイ

学名：*Reishia bronni*

分類：アッキガイ科 レイシガイ属



特徴：

殻長は4 cm程度。

レイシガイに似るが、イボはやや低い。

殻口内は黒色。



イボニシ

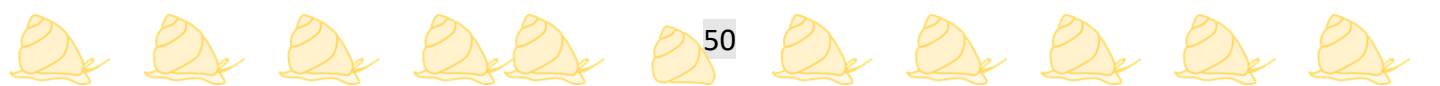
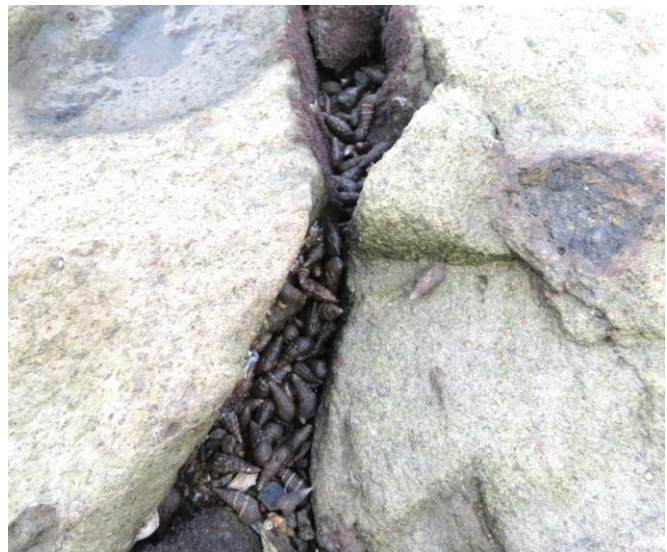
学名：*Reishia clavigera*

分類：アッキガイ科

石の隙間に巻貝が集まっています。

巻貝の仲間には、生きものの死骸を食べたり、有機物を食べる種類が多く、海をきれいに保つための“お掃除係”として重要な役割をもっています。

海に行った時には石の隙間も観察してみましょう。



生きもの豆知識

～肉食の貝？～

巻貝の中には、肉食の種類がいます。二枚貝や他の巻貝などを捕食して生きています。

今回は、そんな肉食巻貝の中でも【ツメタガイ】という巻貝を紹介します。

ツメタガイはタマガイ科の巻貝で、大きいものだと7cmほどになります。

貝殻はつるんと滑らかな丸みを帯びており、貝殻の中にある体の表面は茶色っぽく、裏面は白色です。貝殻から出るときは、マントを広げたように体が大きく広がり、ひらひらと体を動かしながら移動します。移動するときは砂に潜って移動したり、砂の表面を移動したりしています。

移動速度は意外と速いです。

主にアサリなどの二枚貝を食べます。



ツメタガイ

ツメタガイが二枚貝を食べるときは、酸性の液体を出して貝殻を溶かしながらヤスリのようにギザギザした舌を使ってけずり穴をあけて、中身を食べてしまいます。

ツメタガイの捕食シーン(エサ:シオヤガイ)



エサに
そーっと近づく



素早く
つかまえる!



まるまる
体で包み込む



ツメタガイが食べた跡



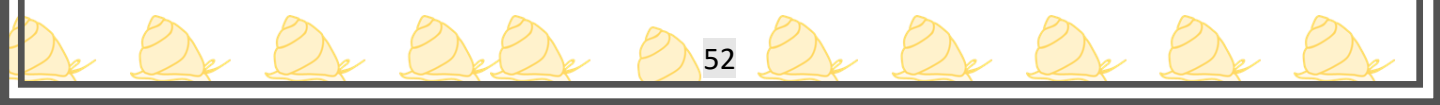
砂に潜る



抱え込んで
移動する



図鑑に載っていない生き物を記録しよう



ウミウシの仲間



アオウミウシ

学名 : *Hypselodoris festiva*

分類 : イロウミウシ科

特徴 :

体は青色。

外套膜は黄色で縁どられる。

真ん中に黄色の縦線が1本あり、
両側にも黄色の斑紋がある。

触角はオレンジ。

二次鰓は白色で、軸の部分がオレンジ。



マダラウミウシ

学名 : *Dendrodoris fumata*

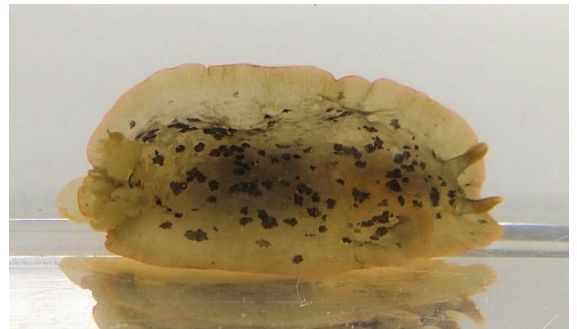
分類 : クロシタナシウミウシ科

特徴 :

6 cm程度。

体は半透明の赤褐色や橙黄色。

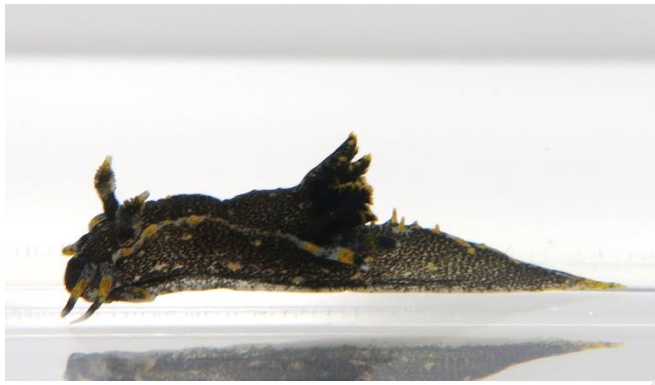
背面には黒色の斑点模様がある。



フジタウミウシの仲間

学名 : -

分類 : フジタウミウシ科



クロコソデウミウシ

学名 : *Polycera hedgpethi*

分類 : フジタウミウシ科

特徴 :

2 cm程度。

体は半透明の下地に黒色の斑点模様が密集している。
触覚付近や二次エラの付近に、白、黄色、黒色からなる
とげがある。

尾の先は黄色。



ヒラミルミドリガイ

学名 : *Elysia trisinuata*

分類 : ゴクラクミドリガイ科

特徴 :

2.5 cm程度。

体は緑色で、全体にオレンジ色の細かい斑点がある。
体の側面には白色の小さな突起がある。



アベミドリガイ

学名 : *Elysia abei*

分類 : ゴクラクミドリガイ科

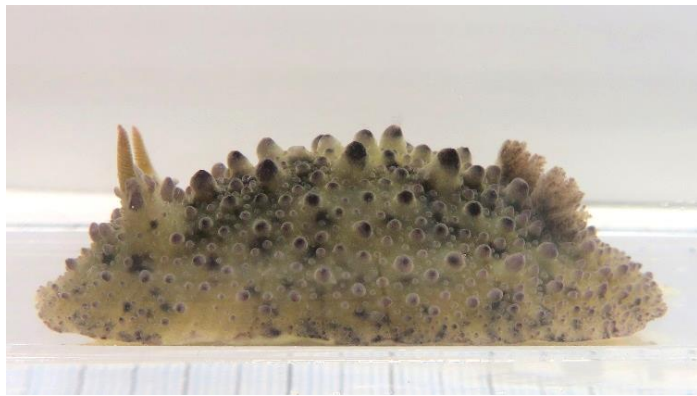
特徴 :

2 cm程度。体は緑～緑褐色。

全体にオレンジ色の細かい斑点がある。

触覚と尾の先は黒い。



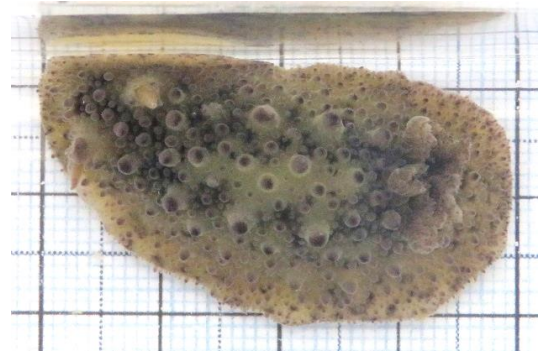


特徴：

4 cm前後。

体は黄土色～一部で黒色。

背面に無数のイボがある。



イソアワモチ

学名：*Peronia verruculata*

分類：イソアワモチ科

ウミウシの豆知識

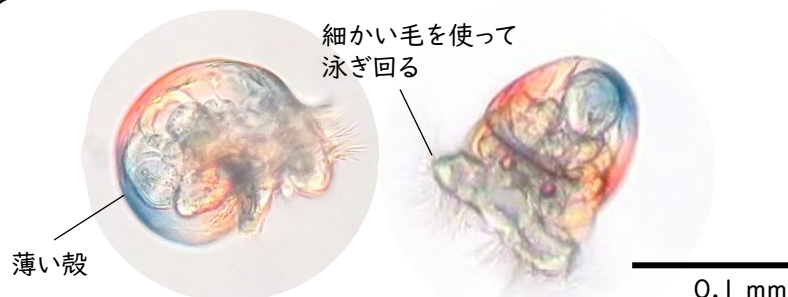
ウミウシは、軟体動物門・腹足綱というグループに分類される巻貝の仲間です。
大人のウミウシは、巻貝とは全く違う形をしています、生まれたばかりの幼生の時には、巻貝と同じような貝殻を持っているのです。
また、大人のウミウシでも、体の中に小さな貝殻を隠し持っているものもあります。



海藻に産みつけられた
ウミウシの卵



顕微鏡で拡大したところ。
袋の中にたくさんの卵が入っている。

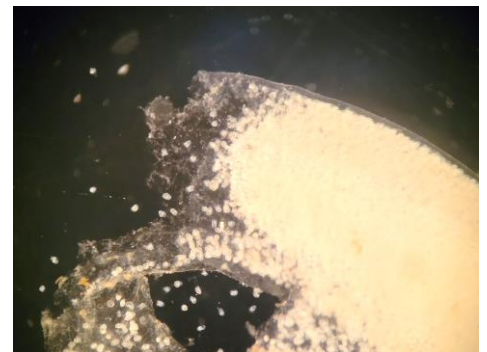


薄い殻

細かい毛を使って
泳ぎ回る

0.1 mm

泳ぎ出てきたウミウシの幼生。巻貝のような殻をもっている。
植物プランクトンを食べて成長し、殻を脱いで大人の姿になる。



卵が成長して泳げるようになると、
袋の中から幼生が泳ぎだしてくる。

図鑑に載っていない生き物を記録しよう

オカミミガイの仲間



特徴：

殻長は5～7 mm程度の小さな貝。

殻は紡錘形で殻頂部はやや細くとがる。

殻表は薄茶色。

海岸の中でも陸に近い場所（満潮時にだけ水に浸かる場所）の石の下を好むため、埋め立てなどで海岸が狭くなると住処が奪われやすい。



ウスコミミガイ

学名：*Laemodonta exaratooides*

分類：オカミミガイ科



特徴：

左の写真は死貝のため、殻の表面が削れ、白くなっている。殻長3.5 cm程度になり、オカミミガイの仲間では日本最大。海岸近くの森林、ヨシ原などに生息し、落ち葉や漂着物の下などに隠れる。カタツムリ等の仲間だが、海の近くでしか生息できないため、開発などによって住処を奪われやすい。

オカミミガイ

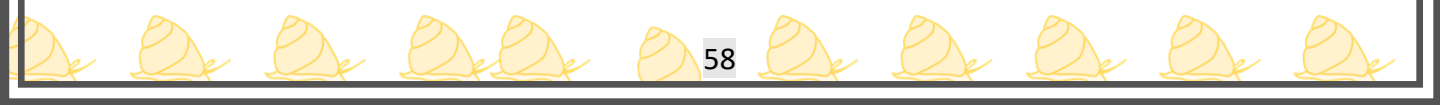
学名：*Ellobium chinense*

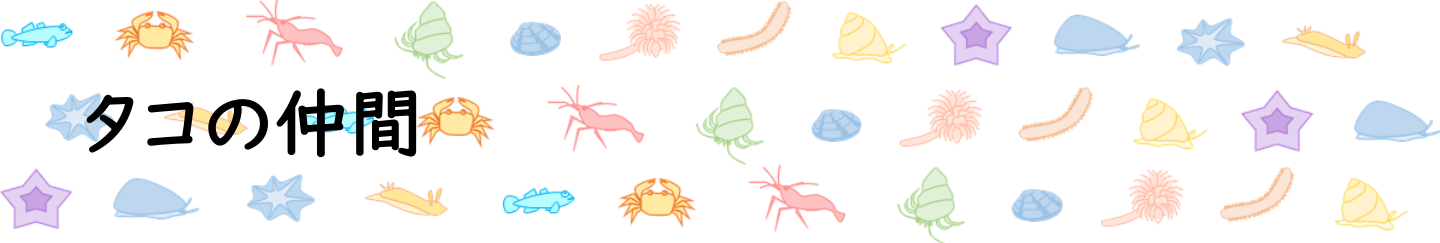
分類：オカミミガイ科





図鑑に載っていない生き物を記録しよう





タコの仲間



特徴：

最大70 cm程度。

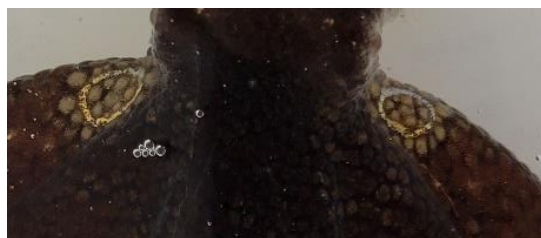
腕が非常に長く、体には白っぽい小さな点がある。



テナガダコ

学名：*Callistoctopus minor*

分類：マダコ科



イイダコ

学名：*Amphioctopus ocellatus*

分類：マダコ科

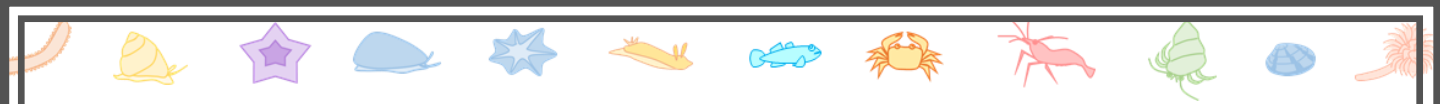
特徴：

最大30 cm程度だが20 cmほどのものがよく見つかる。

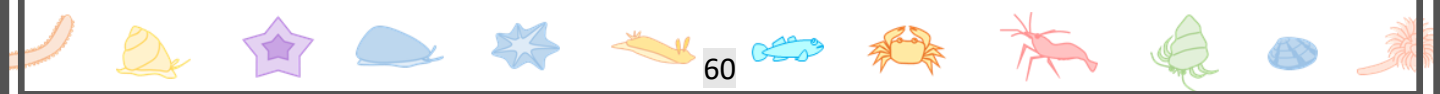
腕の付け根に金色の目玉模様、目の間に白い帯模様があるのが特徴。冬から春にかけて、4 mmほどの米粒のような卵を産む。

体の色は、非常に変わりやすい。





図鑑に載っていない生き物を記録しよう



二枚貝の仲間



トマヤガイ

学名 : *Cardita leana*

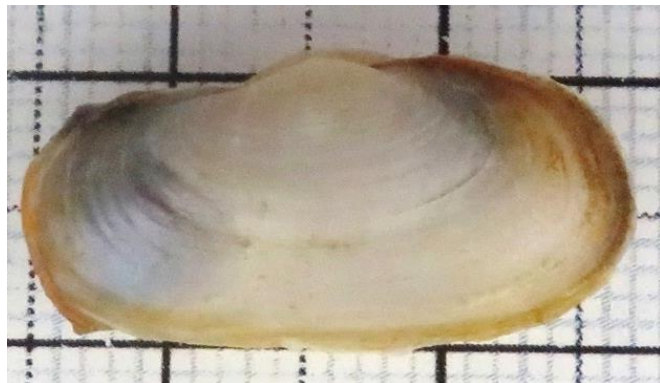
分類 : トマヤガイ科

特徴 :

3 cm程度。殻の膨らみが強く、箱型に長くなる。

太い放射肋が発達し、一部はうろこ状の突起になる。

足系で石の下や隙間に付着して生活している。



ソトオリガイ

学名 : *Laternula marilina*

分類 : オキナガイ科

特徴 :

4 cm程度。

殻は薄くて前後に長く、殻は閉じ切らない。

砂や泥の中に潜って生活する。



クチバガイ

学名 : *Coecella chinensis*

分類 : チドリマスオ科

特徴 :

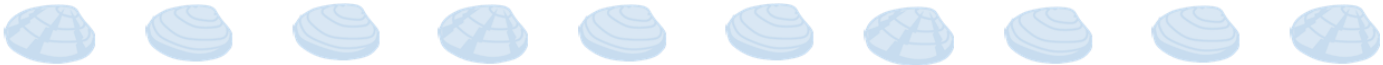
2 cm程度。貝殻に成長肋がある。

貝殻は白色で、その上から茶色の殻皮でおおうが、殻皮がはがれて、一部が白くなっている個体が多い。

砂や泥の中に潜って生活している。

海岸の中でも陸に近い場所(満潮時にだけ水に浸かる場所)を好むため、埋め立てなどで海岸が狭くなると住処が奪われやすい。





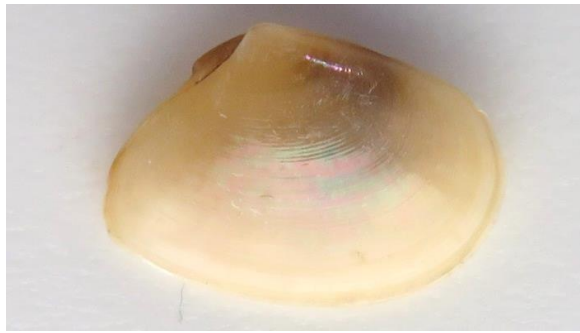
特徴：

大きさは10 cm程度になり、砂に潜って生活する。
砂の上に置くと、脚を砂に突き刺して縦に潜っていく。
殻はうすい茶色で、薄くて壊れやすい。

マテガイ

学名：*Solen strictus*

分類：マテガイ科



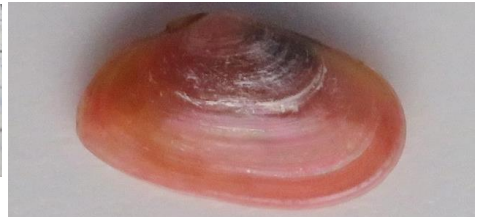
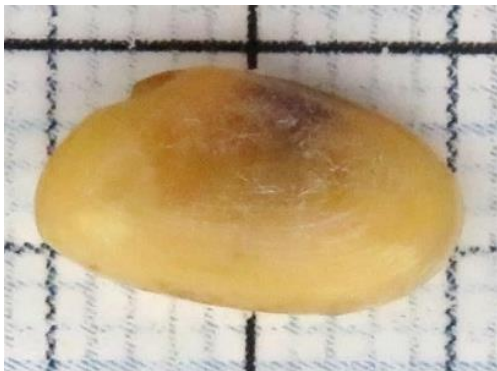
ユウシオガイ

学名：*Moerella rutila*

分類：ニッコウガイ科

特徴：

2 cm程度になる。
殻はとても薄く、細かな成長脈があり、光沢がある。
殻は白、黄色、桃色など様々で、
殻皮が削れて、白くなっているものもある。
砂や泥の中に潜って生活している。



ニッコウガイの仲間

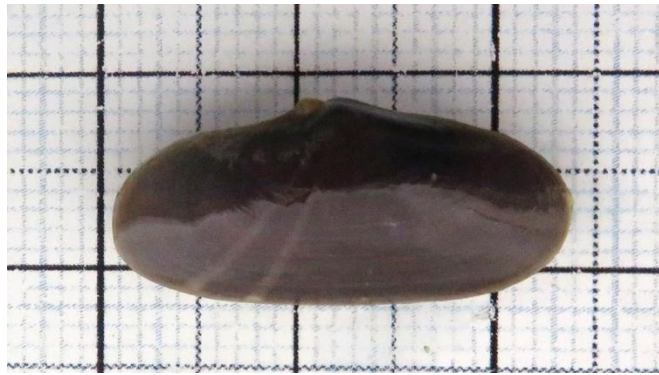
学名：-

分類：ニッコウガイ科

特徴：

3 cm程度。
貝殻は薄く、壊れやすい。赤や黄色などの様々な色がある。
似ている貝が多く、判別することが難しい。





ムラサキガイ

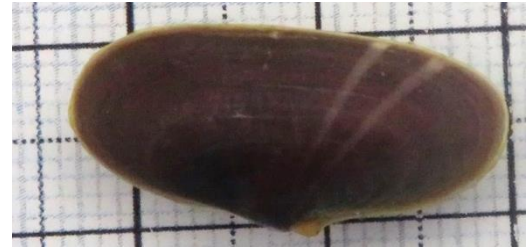
学名 : *Soletellina diphos*

分類 : シオサザナミ科

特徴 :

8 cm程度になる。

紫色で滑らかな殻をもち、2本の白色線がある。



ウミアサガイ

学名 : *Ctena delicatula*

分類 : ツキガイ科

特徴 :

1 cm程度。

円形に近く、深い放射肋が外側に向かって分岐しながら広がるため、外側でも均一な大きさと並ぶ。

殻の2カ所が茶色く色づく。



ウメノハナガイ

学名 : *Pillucina pisidium*

分類 : ツキガイ科

特徴 :

8 mm程度の小さな貝。殻は薄く、殻の端にのみ放射肋があり、成長肋は発達する。

砂の中に潜って生活している。





ニッポンマメアゲマキ

学名： *Pseudogaleomma japonica*

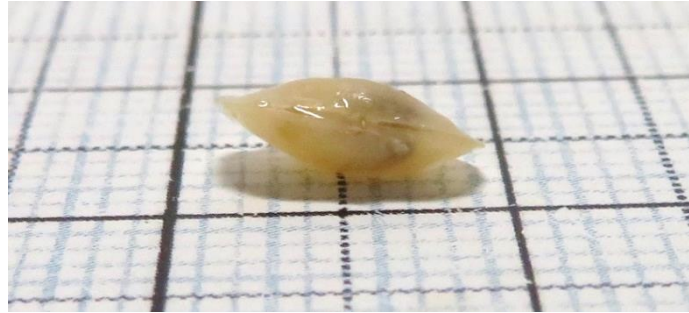
分類：ウロコガイ科

特徴：

1 cm程度。

殻は白く楕円形で、小さな顆粒がある。

石の下で生活している。



ウネナシトマヤ

学名： *Trapezium liratum*

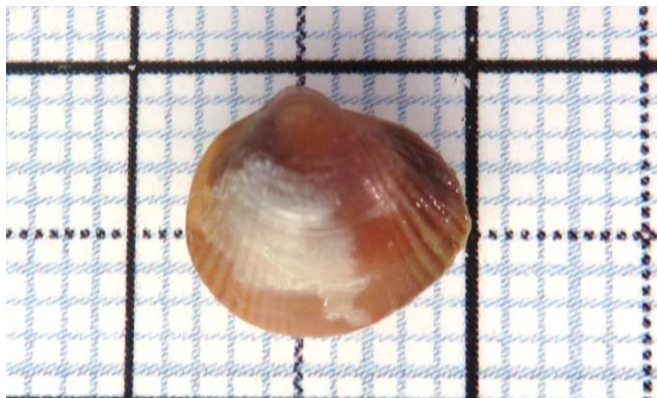
分類：フナガタガイ科

特徴：

3 cm程度。

貝殻は白く、黒～紫色の模様が入る。

足糸で石などに付着する。



チゴトリガイ

学名： *Fulvia hungerfordi*

分類：ザルガイ科

特徴：

2 cm程度になる。

殻は薄く、殻の両端に放射肋があるが、中央は滑らか。

砂や泥の中に潜って生活している。





シオヤガイ

学名： *Anomalocardia squamosa*

分類： マルスダレガイ科

特徴：

3 cm程度。殻はよく膨らむ。

放射肋と成長肋が交差し、顆粒状になる。

砂や泥の中に潜って生活している。



オニアサリ

学名： *Protothaca jedoensis*

分類： マルスダレガイ科

特徴：

5 cm程度。

殻には薄いオレンジ色の模様が入る。

太い放射肋と成長肋が交差して布目状の模様になる。



ケマンガイ

学名： *Gafrarium divaricatum*

分類： マルスダレガイ科

特徴：

4 cm程度。

細かい放射肋があるが、途中で分岐している。

三角形や「人」が連続する模様をもつのが特徴。





ウスハマグリ

学名 : *Pitar japonicus*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

4 cm程度になる。

生きている時には、貝殻に砂粒がついているのが特徴。
砂の中に潜って生活する。



オキシジミ

学名 : *Cyclina sinensis*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

5 cm程度。貝殻には厚みがある。

放射肋と成長肋が交差して布目状の模様になる。

砂や泥の中に潜って生活する。



カガミガイ

学名 : *Phacosoma japonicum*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

6 cm程度になる。

貝殻は白く円形で平たく、細かい成長脈がある。

砂の中で生活するが、砂の表面で見つかることも多い。





ハマグリ

学名 : *Meretrix lusoria*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

8 cm程度になる。殻の表面は滑らかで、色は様々。

国内にはハマグリの他にシナハマグリやチョウセンハマグリもあり、見分けることは難しい。

普段は砂の中に潜って生活しているが、多量の粘液を伸ばして潮の流れに乗って長距離を移動することができる。



マツカゼガイ

学名 : *Irus mitis*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

2 cm程度。成長肋は板状に立ち上がる。

岩の中に穴を掘って住んでいる。



アサリ

学名 : *Ruditapes philippinarum*

分類 : マルスダレガイ科

特徴 :

最大6cm。食卓でもおなじみの貝。殻の色や模様は様々。

細かい放射肋が成長肋と交差して布目状になる。

小さいときは足系で石などに付着して生活するが、大きくなると砂に潜る。





特徴：

4 cm程度。

細かい放射肋と成長肋が交差し、

黒っぽい殻皮は毛状に伸びる。

足系で石の裏などに付着する。

カリガネエガイ

学名：*Unedogemmula deshayesii*

分類：クダマキガイ科



特徴：

2 cm程度。厚く箱型になる。

細かい放射肋と成長肋が交差して布目状になる。

足系で石の裏などに付着する。

ミミエガイ

学名：*Arcopsis symmetrica*

分類：サンカクサルボウ科



特徴：

2 cm程度の小さな貝。

イガイの仲間。

成長肋はあるが、放射肋は無い。

貝に厚みがあり、根元の部分は細くならない。



クログチガイ

学名：*Xenostrobus atratus*

分類：イガイ科



特徴：

2 cm程度。

殻は黒～紫色で、放射肋がある。

足系で石などに付着する

ヒメイガイ

学名：*Septifer keenae*

分類：イガイ科



特徴：

3 cm程度になる。毛に覆われる。

茶色の他、赤～黄色の様々な色がある。

足系で石などに付着して生活している。

ヒバリガイ

学名：*Modiolus nipponicus*

分類：イガイ科



特徴：

食卓でおなじみの貝。

石の表面に付着して生活している。

カキの仲間には似ている種類が多く、
見分けるのは難しい。

カキの仲間

学名：－

分類：イタボガキ科



ケガキ

学名 : *Saccostrea kegaki*

分類 : イタボガキ科

特徴 :

3 cm程度の小型のカキ。

殻の表面に黒い棘上の突起が無数にあるのが特徴。

石の表面に付着して生活している。



ハボウキガイ

学名 : *Pinna attenuata*

分類 : ハボウキガイ科

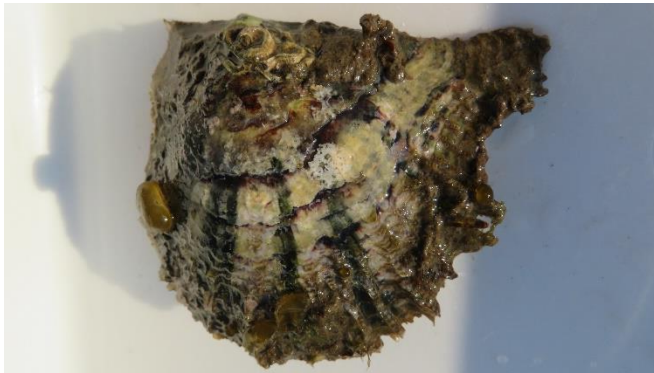
特徴 :

30 cmくらいの大きさになる、殻は薄くて壊れやすい。

砂や石が混ざった海底に体の半分程度が埋まって、“生えている”ことが多い。

貝は、足系で石などに固定されており、簡単には抜けない。

タイラギにも似ているが、ハボウキガイは殻の先が丸くなっており、タイラギは殻の先が直線的になっていることで見分けられる。



アコヤガイ

学名 : *Pinctada fucata martensii*

分類 : ウグイスガイ科

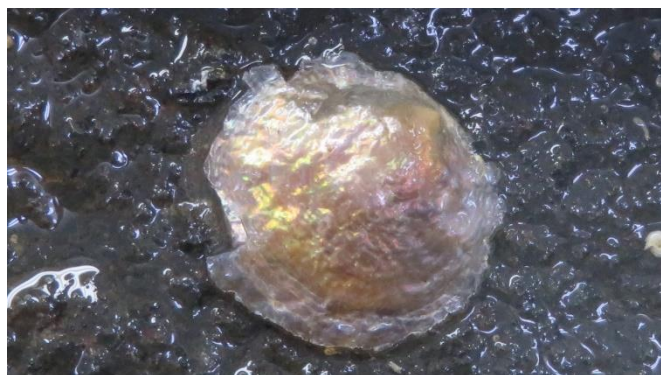
特徴 :

5 cm程度。

真珠養殖に使われる貝。足系という糸を伸ばして、

石などにくっついていくことが多い。

貝殻の内側は美しい真珠色。



ナミマガシワ

学名 : *Anomia chinensis*

分類 : ナミマガシワ科

特徴 :

5 cm程度で、円形に成長するものが多い。

色は紫～真珠のような光沢をもつものが多い。

体は非常に薄く、石に付着して生活している



ヒオウギガイ

学名 : *Mimachlamys nobilis*

分類 : イタヤガイ科

特徴 :

10 cm程度になるホタテガイの仲間。

赤や黄色、黄色、紫色など、様々な色がある。

殻には放射肋があり、無数の突起がうろこ状に発達する。

足系で石などに付着している。



二枚貝の仲間は、砂の中だけでなく、石に付着して生活するものも多いです。左の写真のように、岩のすき間に入り込むものや、岩に穴をあけるものもあります。

いろいろな場所を探してみましょう。



図鑑に載っていない生き物を記録しよう



ゴカイの仲間



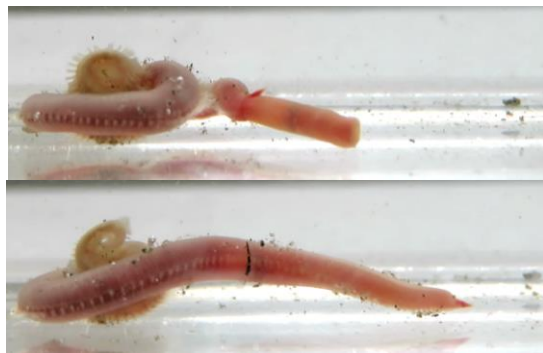
チロリの仲間

学名： *Glycera* sp.

分類：チロリ科

特徴：

10 cmくらいになる。ゴカイの仲間では、頭部と尾部は細くなる。餌をとるときに口が伸びるのが特徴。砂や泥に潜って生活する。



(上) 口を伸ばしたところ (下) 口を縮めたところ



ウロコムシの仲間

学名： -

分類：ウロコムシ科

特徴：

背中にウロコがあるゴカイの仲間。

石の下などにいることが多いが、

ヒトデなどの生物の表面に住み着いて共生するものもある。



ウミケムシ

学名： *Chloeia flava*

分類：ウミケムシ科

特徴：

10 cm程度。

体には多数の剛毛が生えており、海底を歩いたり、泳いだりすることができる。砂の中に潜っていることもある。

毛は肌に刺さりやすく、刺さるとかゆくなることがあるので注意が必要。





ケヤリムシ

学名： *Sabellaster japonica*

分類： ケヤリムシ科

特徴：

泥を固めて作った管状の巣の中に住んでおり、
頭部の触手を花のように広げて水中の餌を捕まえる。



ヤッコカンザシ

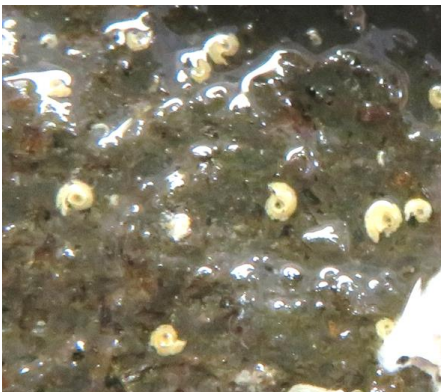
学名： *Pomatoleios kraussii*

分類： カンザシゴカイ科

特徴：

棲管という石灰質の管を石の表面に作って、
その中で生活している。

管の先端部は三角形に尖っており、
潮が満ちると棲管から鰓冠という、房のような器官を出して、
海中の餌をこしとって食べる



ウズマキゴカイの仲間

学名： *Neodexiospira* sp.

分類： カンザシゴカイ科

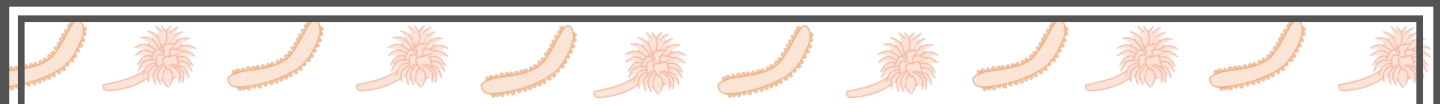
特徴：

3 mm程度。棲管という石灰質の管を石の表面に作り、その中で生
活している。渦巻状の棲管を作ることからこの名前が付いた。

潮が満ちると棲管から触手という、房のような器官を出し、
海中の餌をこしとって食べる



図鑑に載っていない生き物を記録しよう



図鑑に載っていない生き物を記録しよう

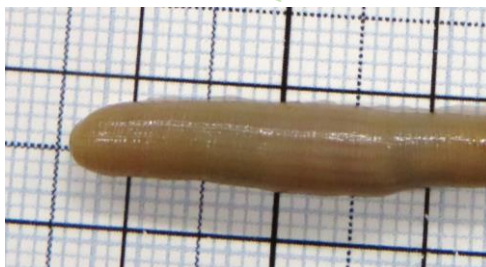
その他の生きもの



スジホシムシモドキ

学名： *Siphonosoma cumanense*

分類：スジホシムシ科



特徴：

10 cm程度。体表の前後方向に筋が入る。

ゴカイに似ているが、星口動物という全く別の生きもの。

砂の中に穴を掘って住んでいる。



ミサキヒモムシ

学名： *Notospermus geniculatus*

分類：リネウス科

特徴：

最大60 cm。

体は細長く、頭部はへら状で腹部前半は筒状で、後半は平たくなる。白い輪状の模様が等間隔に入る。

ゴカイに似ているが、紐型動物という全く別の生きもの。

石の下などにいることが多い。



ヒラムシの仲間

学名： -

分類：ヒラムシ目

特徴：

5 cm程度。

体は非常に薄く、いろいろな色のヒラムシがいる。

貝殻の隙間から侵入して、二枚貝を食べることがある。

ウミウシに似ているが、扁形動物という全く別の生きもの。

石や石の裏で見つかることが多い。



特徴：

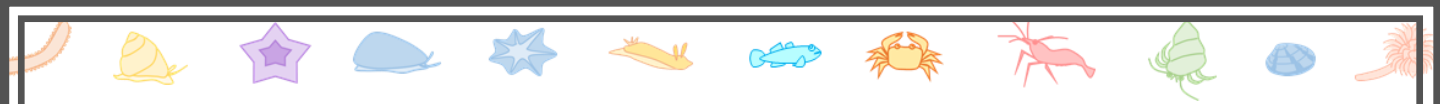
5 cm程度。海水を餌と一緒に取り込み、海水だけを吐き出す。

成体は石やロープなどに付着しているが、幼生はオタマジャクシ型で、自由に泳ぎ回る。脊椎動物（背骨がある動物）の遠い仲間。

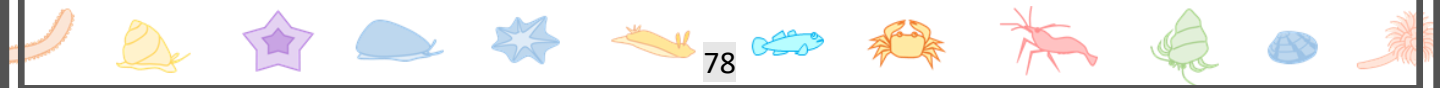
ホヤの仲間

学名： -

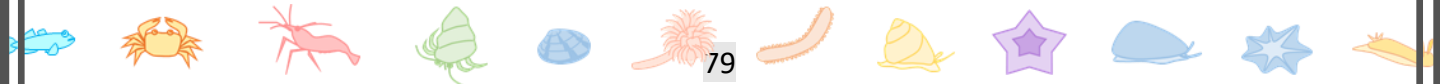
分類： -



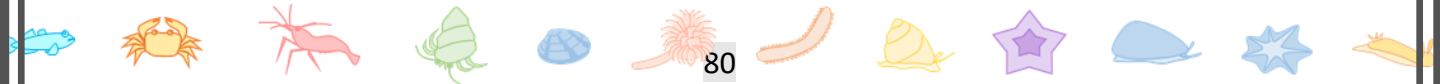
図鑑に載っていない生き物を記録しよう



MEMO



MEMO



索引

ア		ウメノハナガイ	63	コゲツノブエ	43
アオウミウシ	53	ウモレベンケイガニ	29	コシダカガンガラ	41
アオガイ	38	ウラウズガイ	41	コシマガリモエビ	18
アカオビシマハゼ	11	ウロコムシの仲間	73	コショウダイ（幼魚）	9
アカシマモエビ	19	ウロハゼ	11	コツブムシの仲間	31
アカナマコ	35	ウンモンフクロムシ	31	コメツキガニ	30
アカニシ	49	オ		コロコソデウミウシ	54
アコヤガイ	70	オウギガニ	26	ゴンズイ	8
アサリ	67	オオヘビガイ	47	シ	
アシヤガイ	42	オカミミガイ	57	シオヤガイ	65
アベハゼ	10	オキシジミ	66	ス	
アベミドリガイ	54	オトメガサガイ	39	スガイ	42
アマガイ	43	オニアサリ	65	スジエビモドキ	17
アミメハギ	14	カ		スジホシムシモドキ	77
アラムシロ	49	カガミガイ	66	スナヒトデ	33
アラレタマキビ	46	カキの仲間	69	スナモグリの仲間	19
イ		カクベンケイガニ	28	セ	
イイダコ	59	カニモリガイ	44	セジロムラサキエビ	18
イカリナマコの仲間	35	カヤノミカニモリ	44	ソ	
イシガニ	25	カリガネエガイ	68	ソトオリガイ	61
イシダタミ	42	キ		タ	
イソアワモチ	55	キクスズメガイ	47	ダイナンビンボ	14
イソガニ	27	ク		タイワンガザミ	25
イソカニダマシ	22	クチバガイ	61	タカノケフサイソガニ	27
イソテッポウエビの仲間	18	クマノコガイ	41	タケノコメバル	14
イソニナ	47	クルマエビの仲間	17	タネハゼ	10
イトマキヒトデ	33	クログチガイ	68	タマキビ	46
イボウミニナ	45	ケ		チ	
イボニシ	50	ケアシホンヤドカリ	22	チゴイワガニ	30
ウ		ケガキ	70	チゴガニ	29
ウスコミミガイ	57	ケハダヒザラガイ	37	チゴトリガイ	64
ウスハマグリ	66	ケブカガニ	26	チロリの仲間	73
ウズマキゴカイの仲間	74	ケブカヒメヨコバサミ	21	ツ	
ウネナシトマヤ	64	ケフサイソガニ	27	ツメタガイ	46
ウノアシガイ	38	ケマンガイ	65	テ	
ウミアサガイ	63	ケヤリムシ	74	テナガダコ	59
ウミケムシ	73	コ		テングニシ	48
ウミニナ	45	コウダカアオガイ	38		

ト		ヒメヤマトオサガニ	29	ミ	
トサカギンポ	13	ヒモハゼ	13	ミサキヒモムシ	77
トマヤガイ	61	ヒライソガニ	28	ミミエガイ	68
ドロメ	12	ヒラミルムドリガイ	54	ミミズハゼ	13
ナ		ヒラムシの仲間	77	ム	
ナガニシ	48	ビリンゴ	12	ムシロガイ	49
ナミマガシワ	71	フ		ムラサキウニ	34
ニ		フジタウミウシの仲間	53	ムラサキガイ	63
ニッコウガイの仲間	62	フタバカクガニ	28	メ	
ニッポンマメアゲマキ	64	フトコロガイ	48	メダカの仲間	8
ニホンウナギ	8	ヘ		モ	
ニホンクモヒトデ	34	ヘナタリ	45	モエビの仲間	19
ヌ		ヘラムシの仲間	31	ヤ	
ヌマチチブ	11	ホ		ヤスリヒザラガイ	37
ハ		ホソウミニナ	44	ヤッコカンザシ	74
ハボウキガイ	70	ホヤの仲間	77	ユ	
ハマグリ	67	ホンヤドカリ	21	ユウシオガイ	62
ヒ		マ		ユビナガスジエビ	17
ヒオウギガイ	71	マキトラノオガニ	26	ユビナガホンヤドカリ	21
ヒナハゼ	10	マドラウミウシ	53	ヨ	
ヒバリガイ	69	マツカゼガイ	67	ヨウジウオ	9
ヒメイガイ	69	マツバガイ	39	ヨツアナカシパン	34
ヒメカノコガイ	43	マテガイ	62	ヨメガカサ	39
ヒメケハダヒザラガイ	37	マハゼ	12	ヨモギホンヤドカリ	22
ヒメハゼ	9	マメコブシガニ	25	レ	
ヒメヒトデの仲間	33			レイシガイ	50

謝辞

本ガイドブックの製作にあたり、生物調査にご協力いただいた長崎県環境アドバイザー 中原 泰彦 氏に心より御礼申し上げます。

大村湾生きもの探しガイドブック

2024年8月 製作

長崎県環境保健研究センター

〒856-0026 長崎県大村市池田2-1306-11

電話 0957-48-7570

メール s16015@pref.nagasaki.lg.jp

※ 本誌掲載写真などの無断転載は固くお断りします

表紙衛星写真：国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>) を加工して作成

